



Sun™ Management Center 3.0 ソフトウェア Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システム のための追補マニュアル

サン・マイクロシステムズ株式会社
東京都世田谷区用賀 4 丁目 10 番 1 号
SBS タワー 〒 158-8633

Part No. 816-0742-10
Revision A, 2001 年 4 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape、Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	<i>Sun Management Center 3.0 Software Supplement for Sun Fire 6800/4810/4800/3800 Systems</i> Part No: 806-5948-10 Revision A
-----	---



目次

はじめに xiv

1. Sun Fire システムのプラットフォームとドメインの管理 1
 - Sun File サプリメントソフトウェア 1
 - このマニュアルで使用されている用語 3
 - プラットフォームとハードウェアドメインの区別 6
 - このマニュアルで使用している例について 8

2. インストールと設定 11
 - ソフトウェアのインストール 11
 - ▼ ベータバージョンからアップグレードする 11
 - ▼ サプリメントソフトウェアをインストールする 12
 - Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定 14
 - システムコントローラ上の SNMP の設定 14
 - ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する 14
 - ▼ ドメイン上の SNMP を設定する 16
 - エージェントとサーバー階層の設定 18
 - ▼ エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する 18
 - ▼ サーバー上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけ設定する 19

- Sun Fire プラットフォームエージェントのインスタンスの作成と設定 20
 - ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 20
 - ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定をする 21
 - ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを追加する 22
- プラットフォームエージェントの起動 23
 - ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する 23
 - ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する 23
 - ▼ すべてのエージェントを起動する 24
- プラットフォームエージェントの停止 25
 - ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する 25
 - ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する 25
 - ▼ すべてのエージェントを停止する 26
- 設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除 26
 - ▼ Sun Fire のデフォルトのプラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す 27
 - ▼ Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す 27
 - ▼ プラットフォームエージェントを削除する 28
- COD (Capacity on Demand) の監視 28
 - ▼ 別売りの COD (Capacity on Demand) の監視の設定をする 28
- ドメインの設定 29
 - ▼ ハードウェアドメインを作成する 29
 - ▼ 管理ドメインを作成する 29
- 3. プラットフォームエージェントによるプラットフォームとドメインの管理 31
 - Sun Fire プラットフォーム管理モジュール 31
 - ▼ Sun Fire のオブジェクトを作成する 33
 - ドメイン管理者によるプラットフォームエージェントを使ったドメインアクセス 36

- ▼ ドメインの仮想キースイッチ設定を変更する 39
- ▼ ドメインのログホストを設定する 41
- ▼ FRU 情報を表示する 42
- ▼ ホスト詳細を表示する 43
- プラットフォーム管理者によるプラットフォームエージェントを使ったプラットフォームアクセス 43
- ▼ 使用可能なボードを割り当てる 45
- ▼ ボードを割り当て解除する 46
- ▼ ボードの電源をオンまたはオフにする 47
- ▼ ボードをテストする 48
- ▼ システムコントローラの設定をする 49
- ▼ ログホストを設定する 50
- ▼ FRU 情報を表示する 51
- ▼ ホスト詳細を表示する 52
- ▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する 52
- Sun Fire システムの物理表示と論理表示 54
- ▼ 物理および論理表示する 54
- プラットフォーム管理のハードウェア規則 60
- 4. ドメインエージェントによるドメインの管理 61
 - 管理ドメインの設定 61
 - エージェントの起動と停止 62
 - ノードの作成 62
 - 構成リーダーモジュール 62
 - ▼ 構成リーダーモジュールを使用する 62
 - 構成リーダーモジュールの読み込み 67
 - ▼ モジュールを読み込む 67
 - 構成リーダーモジュールのデータ属性テーブル 69

システム	70
ボードテーブル	70
CPU ユニットテーブル	72
DIMM テーブル	72
キースイッチ	73
電源装置テーブル	73
DC 48V テーブル	73
ラックファン	74
ファントレーテーブル	74
入出力コントローラテーブル	74
入出力デバイステーブル	75
ディスクデバイステーブル	76
テープデバイステーブル	76
ネットワークデバイステーブル	77
アドレスリピータテーブル	77
データクロスバーテーブル	77
Sun Fire (3800-6800) データコントローラテーブル	78
Sun Fire (3800-6800) ブートバスコントローラテーブル	78
メモリーコントローラテーブル	78
構成リーダーの規則	79
Sun Fire のハードウェア規則	80
ドメインの物理表示と論理表示	81
5. COD (Capacity on Demand) の管理	83
COD の概要	83
COD パーツ番号とライセンス条件	84
COD のソフトウェアコンポーネント	85
リソースの監視	87

コマンド行インタフェースからの COD の管理 88

- ▼ システムコントローラソフトウェアを使用して、ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする 88
 - ▼ 追加の使用権 (RTU) 付き CPU プロセッサを組み込む 88
- ▼ Solaris オペレーティング環境を使用して、ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする 89
 - ▼ 追加の使用権 (RTU) 付き CPU プロセッサを組み込む 90

Sun Management Center のコンソールからの COD の管理 91

- ▼ COD 使用状況ログを表示する 92
- ▼ COD 使用状況ログをサンに送信する 97

用語集 101

索引 103

図目次

- 図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理者の表示アクセス 2
- 図 1-2 Sun Fire システムコントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント 3
- 図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ 4
- 図 1-4 一般的な Sun Fire のアイコン 5
- 図 1-5 複数のハードウェアドメインをからなる Sun Fire プラットフォーム表示の詳細表示 5
- 図 1-6 プラットフォーム (上) とハードウェアドメイン (下) の詳細ウィンドウ 7
- 図 1-7 アイコンを開く方法 9
- 図 3-1 ハードウェアプラットフォーム管理モジュール 32
- 図 3-2 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ 34
- 図 3-3 「複合」タブの Sun Fire システム表示例 35
- 図 3-4 Sun Fire プラットフォームオブジェクトの「詳細」ウィンドウ 36
- 図 3-5 「ブラウザ」ウィンドウのドメインテーブル 37
- 図 3-6 「キースイッチ」ダイアログ 39
- 図 3-7 「ログホストの設定」ダイアログ 41
- 図 3-8 「FRU 情報」ダイアログ 42
- 図 3-9 「割り当て」ダイアログ 45
- 図 3-10 「割り当て解除」ダイアログ 46
- 図 3-11 「電源オフ」ダイアログ 47
- 図 3-12 「ボードのテスト」ダイアログ 48

- 図 3-13 「システムコントローラのネットワーク設定」ダイアログ 49
- 図 3-14 「ログホストの設定」ダイアログ 50
- 図 3-15 「FRU 情報」ダイアログ 51
- 図 3-16 「アクセス制御リスト」ダイアログ 52
- 図 3-17 「詳細」ウィンドウ 54
- 図 3-18 「ハードウェア」タブと「ハードウェアの概要」テーブル 55
- 図 3-19 「表示」プルダウンメニュー 56
- 図 3-20 物理表示 (Sun Fire 6800 システムの背面図) 57
- 図 3-21 論理表示 58
- 図 3-22 「詳細」ウィンドウの論理表示内の「検索」ボタン 59
- 図 4-1 「詳細」ウィンドウ 63
- 図 4-2 構成リーダーと規則のアイコン 64
- 図 4-3 構成リーダー 65
- 図 4-4 Sun Fire 規則テーブル 66
- 図 4-5 「詳細」ウィンドウの「モジュール」タブ 68
- 図 5-1 Sun Management Center コンソール 92
- 図 5-2 Sun Fire のアイコン 93
- 図 5-3 「詳細」ウィンドウ 93
- 図 5-4 「COD の監視」アイコン 94
- 図 5-5 Capacity on Demand のアイコン 95
- 図 5-6 別売りの COD が使用できないときの画面 95
- 図 5-7 「COD ログの表示」を選択している画面 96
- 図 5-8 一般的な COD ログ 97
- 図 5-9 COD ログコレクタのポップアップメニュー 98
- 図 5-10 「プローブ表示」ウィンドウ 99

表目次

表 2-1	ユーザーグループ	22
表 3-1	ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目	37
表 3-2	テーブルの操作	38
表 3-3	プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目	43
表 3-4	テーブル操作メニューの項目	44
表 3-5	プラットフォーム管理のハードウェア規則	60
表 4-1	システムの属性	70
表 4-2	ボードの属性	70
表 4-3	CPU ユニットの属性	72
表 4-4	DIMM の属性	72
表 4-5	キースイッチの属性	73
表 4-6	電源装置の属性	73
表 4-7	DC 48V の属性	73
表 4-8	ラックファン	74
表 4-9	ファントレーテーブル	74
表 4-10	入出力コントローラテーブル	74
表 4-11	入出力デバイステーブル	75
表 4-12	ディスクデバイステーブル	76
表 4-13	テープデバイステーブル	76

表 4-14	ネットワークデバイステーブル	77
表 4-15	アドレスリピータテーブル	77
表 4-16	データクロスパーテーブル	77
表 4-17	Sun Fire (3800-6800) データコントローラテーブル	78
表 4-18	Sun Fire (3800-6800) ブートバスコントローラテーブル	78
表 4-19	メモリーコントローラテーブル	78
表 4-20	構成リーダーの規則	79
表 4-21	ドメイン管理のハードウェア規則	80
表 5-1	CPU プロセッサと使用権 (RTU) ライセンス条件	85
表 5-2	COD 用のシステムコントローラのコマンド	85
表 5-3	Sun Management Center ワークステーション上で使用可能な COD 用のシステムコントローラコマンド	86

はじめに

このマニュアルでは、Sun Fire™ サーバーシステムにおける Sun™ Management Center 3.0 ソフトウェアの使用方法を説明しています。

書体と記号について

このマニュアルで使用している書体と記号について説明します。

表 P-1 このマニュアルで使用している書体と記号

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名 % su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。

表 P-1 このマニュアルで使用している書体と記号 (続き)

書体または記号	意味	例
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% <code>grep `^#define` \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

シェルのプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine_name%</i>
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine_name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
ソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.0 ソフトウェア インストールガイド』	806-7245
ソフトウェアの使用方法	『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』	806-7237
プラットフォームの管理	『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』	806-7904-10
コマンドリファレンス	『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』	806-7903

他の関連マニュアルの一覧は、以下の URL の Sun Management Center Web サイトにある『Sun Management Center 3.0 ソフトウェア ご使用にあたって』を参照してください。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

第1章

Sun Fire システムのプラットフォームとドメインの管理

この章では、Sun™ Management Center 3.0 ソフトウェアによるプラットフォームとドメインの管理について説明します。このマニュアルの情報は、Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 にのみ該当します

Sun File サプリメントソフトウェア

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアは、ワークステーションまたはサーバーから Sun のシステムを監視することを可能にします。Sun Management Center 3.0 ソフトウェアを使用し、ネットワークからいろいろな遠隔操作およびアプリケーションを管理できます。Sun File サプリメントソフトウェアは、Sun Fire システムで主要 Sun Management Center 3.0 ソフトウェアが機能できるようにします。

一部 Sun Fire システムでは、別売りの COD (Capacity on Demand) ソフトウェアを利用できます。Sun Fire システムに COD ソフトウェアがインストールされている場合、COD ソフトウェアが自動的にそのライセンスを監視して、COD の利用に関する状況報告が自動的にサンに通知されるようにするには、Sun Management Center 3.0 が常時動作している必要があります。

Sun Fire システムは、それぞれに専用の Solaris™ オペレーティング環境を実行するハードウェアドメインに分割されます。システムの能力およびそれを構成するハードウェアリソース数によって異なりますが、1つの Sun Fire システムは最大4つのドメインで構成できます (最小はドメイン1つの構成)。ドメインが使用されるため、Sun Fire サプリメントソフトウェアには、2つの動作モードがあります (図 1-1)。

- **ドメイン管理者**は、Sun Fire ドメイン上で動作する Sun Management Center、または Sun Fire システムコントローラ上で動作する SNMP エージェントのプロキシ管理を行う Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用して、Solaris ドメイン表示にアクセスできます。
- **プラットフォーム管理者**は、Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用し、システムコントローラ上のコンソールからプラットフォーム表示にアクセスできます。

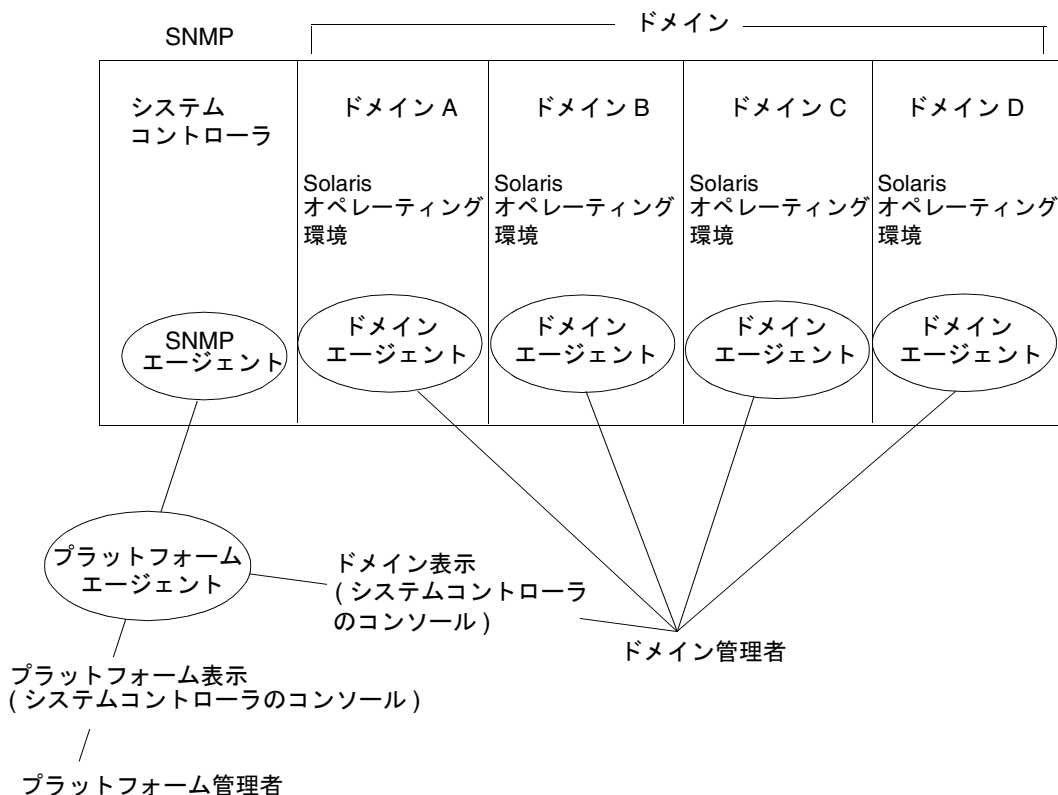


図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理者の表示アクセス

Sun Fire サプリメントソフトウェアをシステム (ワークステーションまたはサーバー) にインストールすると、そのシステム上で Sun Management Center 3.0 ソフトウェアを実行することによって、Sun Fire システム内のシステムコントローラにアクセスできます。

サブリメントソフトウェアの初期設定では、システムコントローラにアクセスすることを可能にするプラットフォームエージェントが1つ作成されます。他の Sun Fire システム上のシステムコントローラにアクセスするには、システムコントローラごとにエージェントインタフェースをインストールします (図 1-2)。

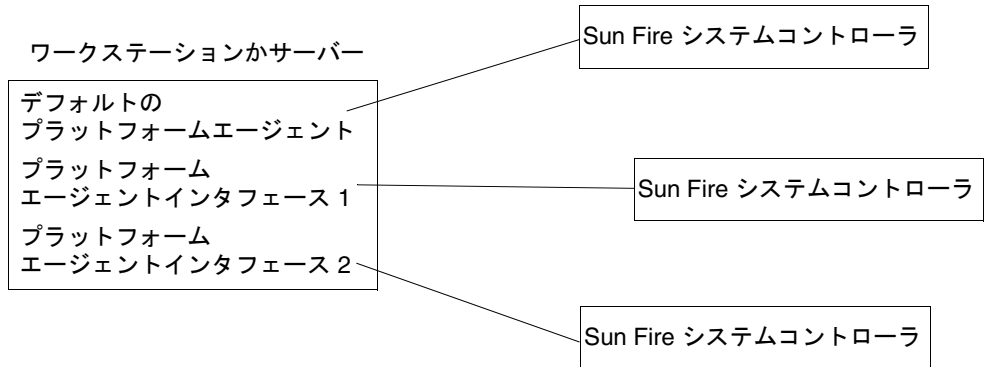


図 1-2 Sun Fire システムコントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント

このマニュアルで使用されている用語

注 - このマニュアルでは、「administrative domain」は Sun Management Center 管理ドメインを意味します。他のサン製品またはマニュアルで使用されている「ドメイン」と混同していないでください。

管理ドメイン - 管理ドメインは、1つ以上のホストシステムで構成されます。

プラットフォーム - 1つの全体を表す用語です。このマニュアルで説明しているように、たとえば、Sun Fire 6800 システムは1つのプラットフォームです。

ドメイン (またはハードウェアドメイン) - Sun Fire プラットフォーム内のドメインは、パーティション内の論理的に独立した複数のセクションで構成でき、各ドメインは、それぞれに専用のオペレーティングシステムを実行します。この種のドメインがシステムポートとその他の装置から構成されるのに対し、管理ドメインは、複数のドメインおよびプラットフォームで構成できます。違いを明瞭にするにするため、このマニュアルでは、この種のドメインを「ハードウェアドメイン」と呼びます。

図 1-3 は管理ドメインの表示例です。管理ドメインが完全なシステムとハードウェアドメインで構成されていることに注意してください。

これに対し、図 1-5 は、ホスト内のハードウェアドメインを表しています。

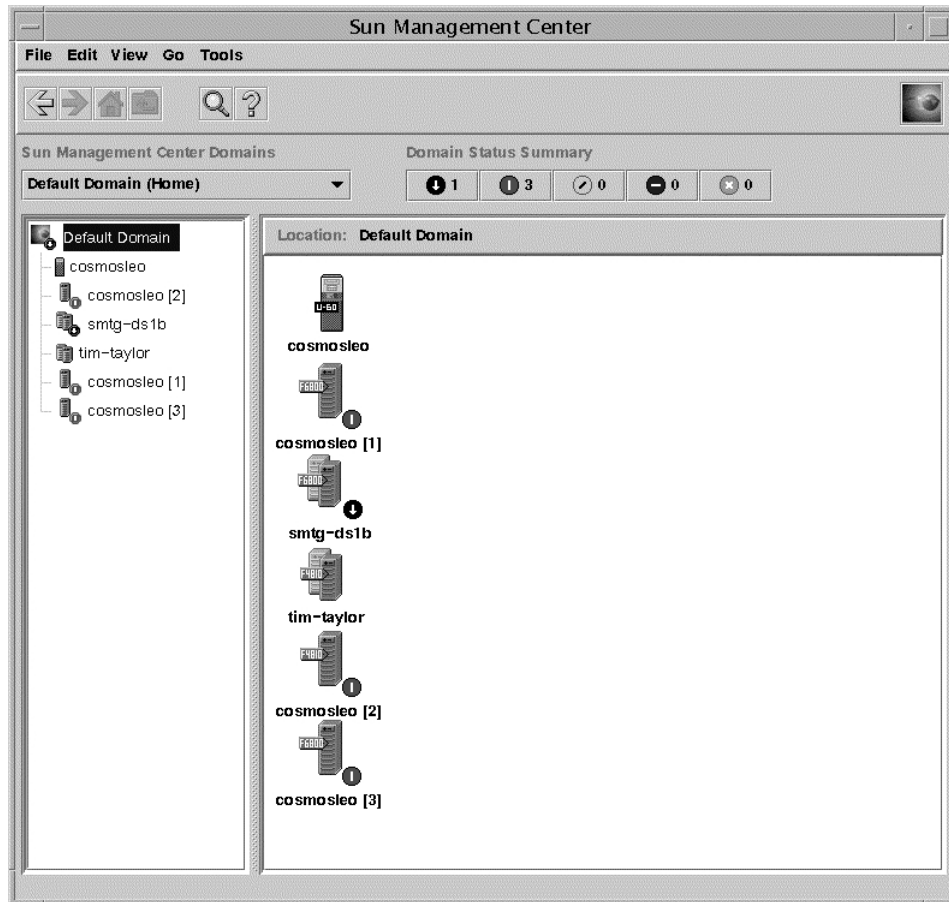


図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ

図 1-4 は、Sun Fire 6800 システムを表す一般的なアイコンを示しています。その他の種類の Sun Fire システムを表すアイコンには、それぞれ対応するモデル番号が付いています。

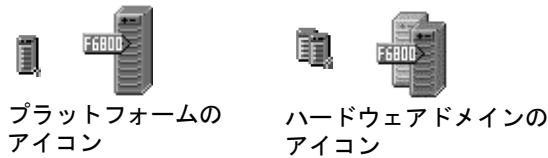


図 1-4 一般的な Sun Fire のアイコン

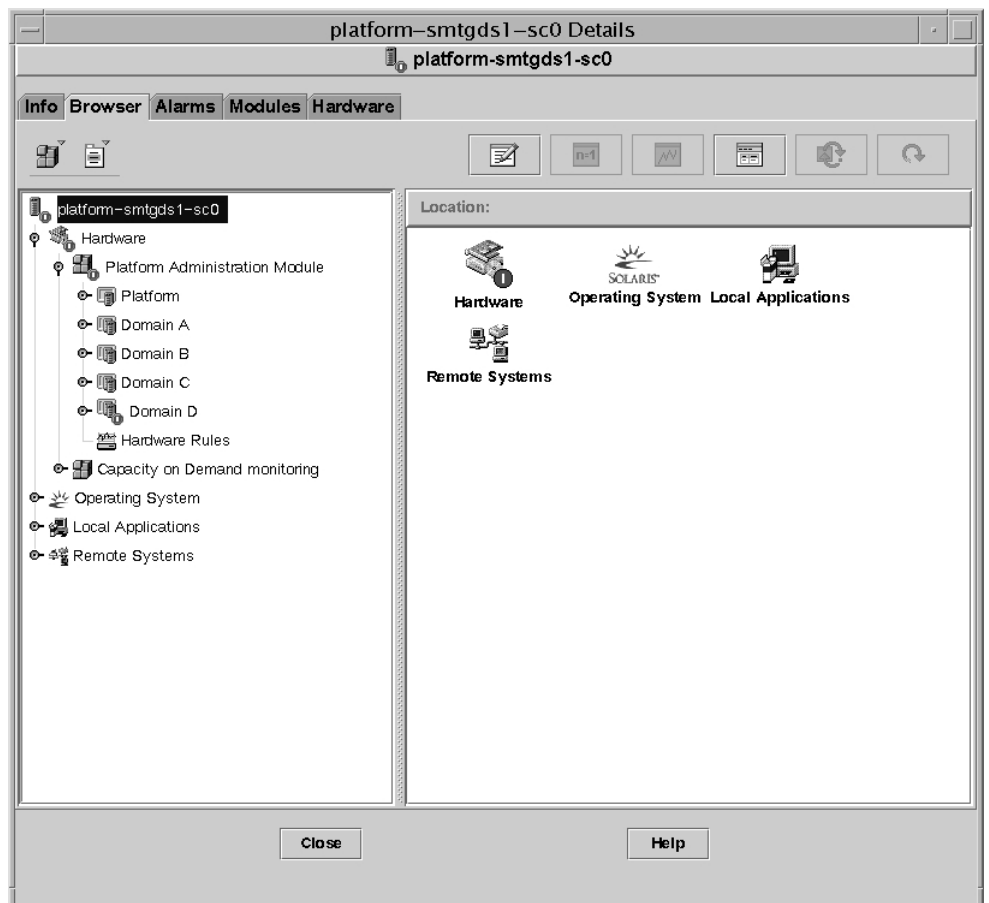


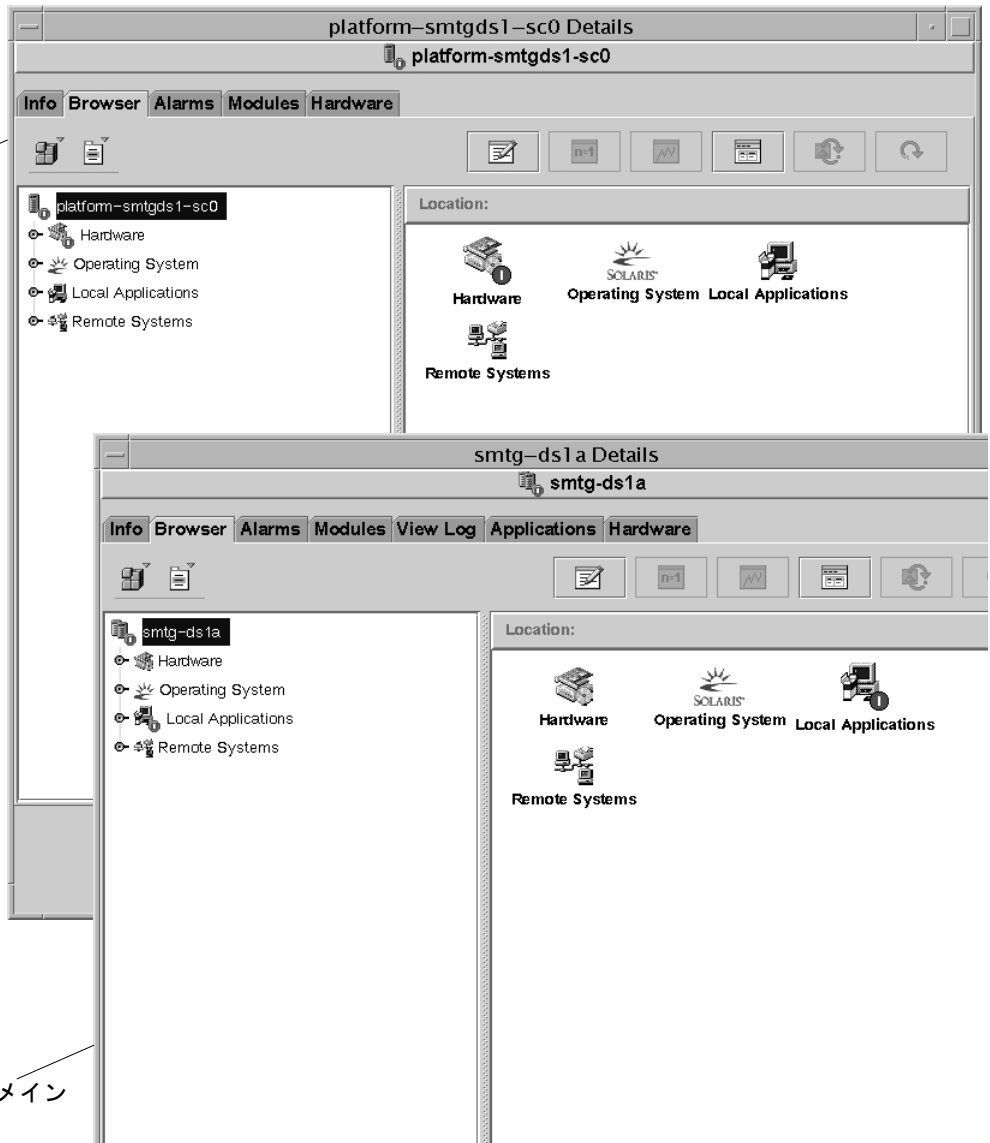
図 1-5 複数のハードウェアドメインをからなる Sun Fire プラットフォーム表示の詳細表示

プラットフォームとハードウェアドメインの区別

当初表示したとき、プラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウは非常によく似ています。デフォルトでは、両方のウィンドウとも最初に関くタブは「ブラウザ」タブです。図 1-6 は、一般的なプラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウを比較していします。

- **プラットフォーム**: プラットフォームの詳細ウィンドウであるかどうかは、プラットフォームのアイコン (図 1-4) とタブが 5 つ (情報、ブラウザ、アラーム、モジュール、ハードウェア) があることで見分けることができます。
- **ハードウェアドメイン**: ハードウェアドメインの詳細ウィンドウであるかどうかは、ハードウェアドメインのアイコン (図 1-4) とタブが 7 つあることで見分けることができます。7 つのタブは、プラットフォーム用の上記の 5 つのタブと「ログ表示」タブ、「アプリケーション」タブです。

プラットフォーム
詳細ウィンドウ



ハードウェアドメイン
詳細ウィンドウ

図 1-6 プラットフォーム (上) とハードウェアドメイン (下) の詳細ウィンドウ

このマニュアルで使用している例について

このマニュアルで示す多くの手順または操作は複数の方法で実施できますが、説明を簡潔にするため、このマニュアルでは、最も簡単または素早い 1 つの方法だけ紹介しています。

たとえば、メインコンソールウィンドウ (図 1-3) から Sun Fire システムの詳細表示を開く方法は 4 つあります。

- 階層表示 (ウィンドウ内の左側の表示) 内の「Sun Fire」アイコンを 1 回クリックして、最上部のバーの「ツール」メニューをクリックし、「詳細」を選択する。
- トポロジ表示 (ウィンドウ内の右側の表示) で上記と同じ操作を行う。
- 階層表示で「Sun Fire」アイコンをダブルクリックする。
- トポロジ表示で「Sun Fire」アイコンをダブルクリックする。

同様に、アイコンを開く方法も、図 1-7 に示すように複数あります。

- 「すべて開く」ボタンをクリックする (ウィンドウによっては、このボタンがないこともあります)
- アイコンの横の開く記号をクリックする。
- 階層またはトポロジ表示内のアイコンをダブルクリックする。

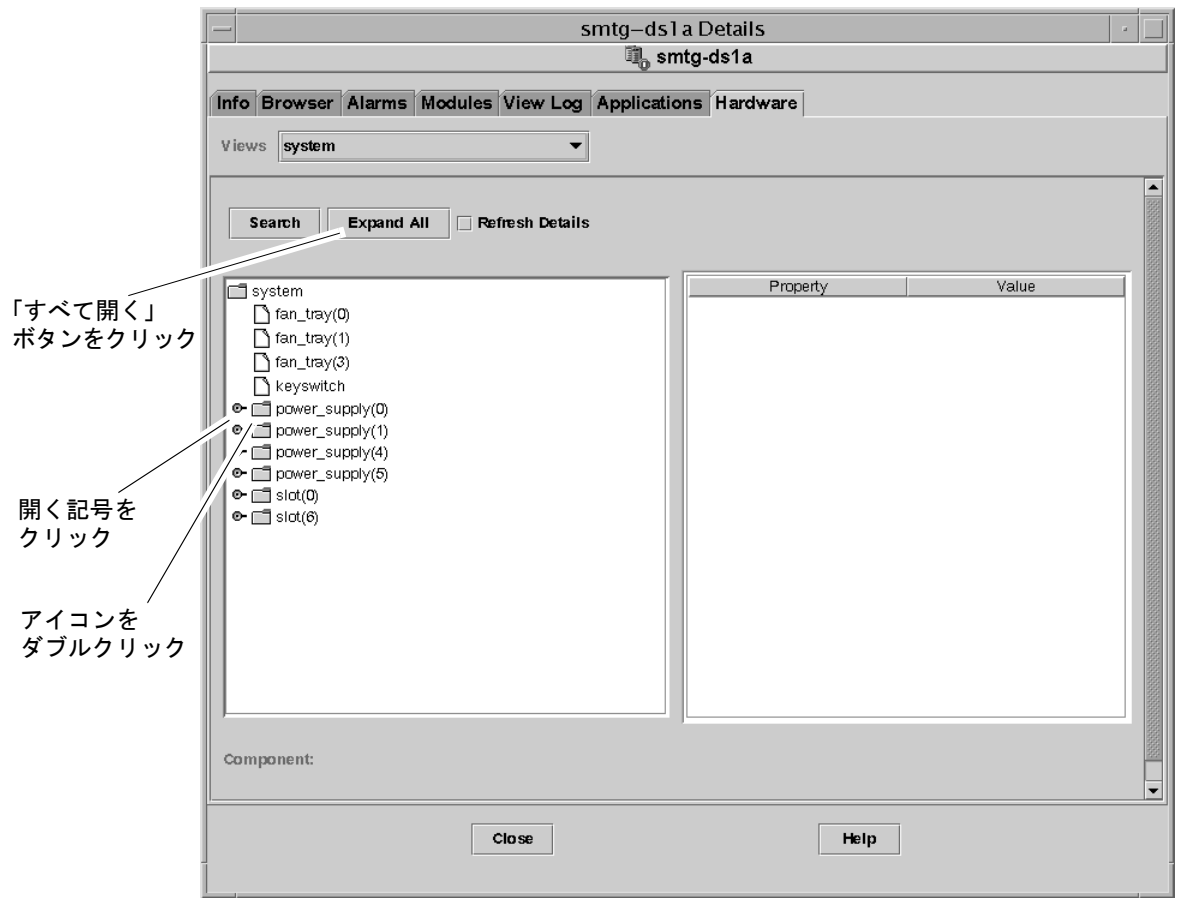


図 1-7 アイコンを開く方法

第2章

インストールと設定

この章では、以下の作業を行う方法を説明します。

- 11 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 14 ページの「Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定」
- 23 ページの「プラットフォームエージェントの起動」
- 25 ページの「プラットフォームエージェントの停止」
- 26 ページの「設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除」
- 28 ページの「COD (Capacity on Demand) の監視」
- 29 ページの「ドメインの設定」

ソフトウェアのインストール

▼ ベータバージョンからアップグレードする

システムにベータ 1.0 または 2.0 の Sun Management Center 3.0 ソフトウェアがインストールされている場合は、下記に示す方法で、そのベータ版をアンインストールする必要があります。

注 – アップグレード中、ベータ 1.0 版で作成されたデータを残すことはできません。
ベータ 2.0 版の場合は、既存のデータを残すことができます。

1. es-uninst スクリプトを使用して、ベータ 2.0 版のアンインストールします。

```
# /$BASEDIR/SUNWsymon/sbin/es-uninst
```

\$BASEDIR は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。

2. アンインストール中の "Do you want to preserve the existing data [y|n|q]" という質問に答えます。
 - ベータ 1.0 の場合："n" を選択して既存のデータを廃棄するか、"q" を選択してアンインストールを終了します。ベータ 1.0 のデータを残すことはできません。
 - ベータ 2.0 の場合："y" を選択して既存のデータを残すか、"n" を選択して既存のデータを廃棄するか、"q" を選択してアンインストールを終了します。
3. 次の節に進み、Sun Management Center 3.0 Platform Update 1 ソフトウェアをインストールすることによって、アップグレードを完了します。

▼ サプリメントソフトウェアをインストールする

サプリメントソフトウェアは、完全な Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージが収録されている 2 枚の CD で提供されます。その 2 枚の CD は次のとおりです。

- Sun Management Center 3.0 Platform Update 1, disk 1 of 2
- Sun Management Center 3.0 Platform Update 1, disk 2 of 2

1. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインに Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージをインストールします。
 - 主要 Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージをインストールしていない場合は、この手順で、Sun Fire サプリメントソフトウェアとともに主要パッケージもインストールします。完全なインストール方法については、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアインストールガイド』（パーツ番号 806-7245）を参照してください。CD セットには、このマニュアルのソフトコピーが収録されています。

- 主要 Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージがすでにインストールされている場合は、以下の手順で Sun Fire サプリメントソフトウェアのみインストールします。

- a. Sun Fire サプリメントソフトウェアだけインストールする場合は、アップデート CD 内または Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージがインストールされているディレクトリ内の `sbin` ディレクトリから `es-inst` を実行します。

`es-inst` スクリプトからソースディレクトリの入力が必要です。

- b. ソースディレクトリを入力します。

CD を `/cdrom/cdrom0` にマウントして、インストールディレクトリから `es-inst` を実行した場合は、ソースディレクトリとして `/cdrom/cdrom0/image` を指定します。

`es-inst` コマンドとそのオプションについての詳細は、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアインストールガイド』（パーツ番号 806-7245）を参照してください。



注意 – 主要 Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージをすでにインストールして、*Sun Fire* サプリメントソフトウェアだけインストールする場合は、設定の開始を促すメッセージが表示されたときに `n` (いいえ) を入力してください。 `y` (はい) を入力すると、セキュリティーキーなどの、カスタマイズした設定情報が失われることがあります。

サプリメントソフトウェアの正しい設定手順は、14 ページの「Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定」で説明します。

注 – Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージをフルインストールする場合は、インストール手順の最後で設定スクリプトを使用することができます。そのとき設定スクリプトを実行しないで、後で実行することもできます。設定スクリプトは、`(es-setup)` は `$BASEDIR/sbin` ディレクトリ内にあります。

`$BASEDIR` は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。設定スクリプトによる設定では、プラットフォームエージェントをはじめとする、Sun Management Center のすべてのエージェントが設定されます。プラットフォームエージェントだけ設定する場合は、別の設定スクリプト、`es-setup.sh` を使用してください (`.sh` 接尾辞に注意)。18 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照してください。

2. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのプラットフォームの管理に使用するすべてのシステム (エージェントマシン) に Sun Management Center 3.0 ソフトウェアパッケージをインストールします。手順 1 の注意と注をお読みください。

エージェントマシンに Sun Management Center ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、バージョン 3.0 にアップグレードしてください。

注 - 下記の手順は、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアインストールガイド』の「追加コンポーネント」に関するあらゆる手順に優先します。

Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定

この設定作業は、以下の 3 つの作業で構成されます。

- システムコントローラの設定 - 14 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」を参照してください。
- エージェント階層の設定 - 18 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照してください。
- サーバー階層の設定 - 19 ページの「サーバー上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけ設定する」を参照してください。

システムコントローラ上の SNMP の設定

ここでは、SNMP の設定を、プラットフォーム上とドメイン上の 2 つに分けて説明します。両方の設定を行ってください。

▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する

注 - 複数のプラットフォーム管理エージェントが同じ Sun Fire システムコントローラを管理するように設定しないでください。システムの動作が遅くなったり、さらに悪いときには、ハングアップしたりします。

1. telnet (1) コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします (コード例 2-1)。
2. システムコントローラのメインメニューで、0 (または P か p) を入力して、プラットフォームのシェルに入ります。

プラットフォームのシェルプロンプトの *schostrname:SC* が表示されます。

コード例 2-1 telnet でシステムコントローラにアクセスして、プラットフォームのシェルに入る

```
% telnet schostrname
System Controller schostrname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 0
schostrname:SC>
```

注 - *schostrname* は、システムコントローラのホスト名です。

3. コード例 2-2 に示すように、`setupplatform -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-2 プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定

```
schostrname:SC> setupplatform -p snmp
SNMP
----
Platform Description [description]: 説明を入力
Platform Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Platform Location [location]: プラットフォームの位置を入力
Enable SNMP Agent? [no]:yes
Trap Hosts [hostname]: サーバー名を入力
Public Community String [string]: 文字列 1 を入力
Private Community String [string]: 文字列 2 を入力
```

Trap Hosts には、プラットフォームを管理元となる Sun Management Center サーバーのホスト名を入力します。

4. CTRL キーを押しながら] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
5. q を入力して、telnet を終了します。

▼ ドメイン上の SNMP を設定する

1. telnet コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします (コード例 2-3)。
2. ドメインに入ります。1、2、3、4 (または a、b、c、d、A、B、C、D) のいずれかを入力して、適切なドメインのシェルに入ります。

ドメインのシェルプロンプトの *schostrname:X* が表示されます。X は、選択したドメインを表します。

コード例 2-3 telnet でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る

```
% telnet schostrname
System Controller schostrname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 1
schostrname:A>
```

注 - *schostrname* は、システムコントローラのホスト名です。コード例 2-3 では、ドメイン A の例を示しています。

3. ドメインがアクティブで、ドメインのキースイッチが on、diag、secure (Solaris オペレーティング環境を実行しているか、OpenBoot PROM モードであるか、POST を実行しているか) のいずれかの場合は、次の操作を行います。

- a. CTRL キーを押しながら] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
- b. telnet> プロンプトで、send break を入力します。

コード例 2-3 は、ドメイン A との接続例を示しています。

4. コード例 2-4 に示すように、`setupplatform -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-4 ドメイン上の SNMP エージェントの設定

```
schostname:A> setupdomain -p snmp
SNMP
----
Domain Description [description]: 説明を入力
Domain Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Trap Hosts [hostname]: サーバー名を入力
Public Community String [string1]: 文字列 1 を入力
Private Community String [string2]: 文字列 2 を入力
```

Trap Hosts には、プラットフォームを管理元となる Sun Management Center サーバーのホスト名を入力します。

Public および Private Community String には、ドメインおよびプラットフォームごとに異なる文字列を入力します。

5. `disconnect` と入力して、ドメインのシェルとの接続を終了します。
6. 追加するドメインがある場合は、そのドメインごとに手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。
7. CTRL キーを押しながら] キーを押して、`telnet>` プロンプトに戻ります。
8. `q` を入力して、`telnet` を終了します。

エージェントとサーバー階層の設定

▼ エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する

エージェントマシンにサーバーとエージェントの両方の階層がインストールされている場合、以下の手順は自動的に両方の階層を設定します。

1. `su` - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `$BASEDIR/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
`$BASEDIR` は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center がインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-setup.sh` スクリプトを実行します。

デフォルトのプラットフォームエージェントのインスタンスに対して、このモジュールの設定を行うには、以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh
```

スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire システムコントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する読み取りおよび書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が必要です。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

参照 - 上記の手順で提供した情報は、このスクリプトを再実行して変更することができます。

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアには、"platform" という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、23 ページの「プラットフォームエージェントの起動」を参照してください。

▼ サーバー上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけ設定する

以下の手順は、サーバー階層だけ設定します。サーバー上のサーバー、エージェント、コンソール階層の設定については、18 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照してください。

注 - コンソールやエージェント階層を設定しないで、サーバー階層だけ設定するようにした場合は、以下の手順で示すように、-s オプションを使用しないかぎり、ユーザーグループは自動的に /etc/group に追加されません。表 2-1 のユーザーグループの一覧を参照してください。

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。
\$BASEDIR は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。
3. -s オプションを付けて es-setup.sh スクリプトを実行します。

```
# ./es-setup.sh -s
```

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。Sun Management Center 3.0 ソフトウェアには、"platform" という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。起動方法についての詳細は、23 ページの「プラットフォームエージェントの起動」を参照してください。

Sun Fire プラットフォームエージェントのインスタンスの作成と設定

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire システムを監視できます。複数の Sun Fire システムを監視するには、それぞれにプラットフォームエージェントのインスタンスを1つ追加作成する必要があります。

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. `su -` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `$BASEDIR/sbin` ディレクトリに移動します。`$BASEDIR` は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center がインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-platform` スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

このスクリプトは、新しいプラットフォームエージェントのポート番号とセキュリティシードの入力を求めます。Sun Management Center の設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。

▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定をする

1. `su` - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `$BASEDIR/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
`$BASEDIR` は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center がインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

3. 以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh -I instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

`es-setup.sh` スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire システムコントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する読み取りおよび書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が必要です。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

注 - 上記の手順で提供した情報は、このスクリプトを再実行して変更することができます。

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、23 ページの「プラットフォームエージェントの起動」を参照してください。

▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを追加する

ユーザーのユーザー名が `esusers` ファイルに登録されていない場合は、Sun Fire システムにログオンし、ドメイン管理エージェントに対して読み取り専用でアクセスできます。プラットフォームエージェントの下でプラットフォームまたはドメイン情報の読み取りと書き込みを行うには、サーバー上の `group` にもユーザー名が登録されている必要があります。

この設定手順では、Sun Fire サーバマシン上に最大 10 個のグループを作成できます。それらのグループは次のとおりです。

表 2-1 ユーザーグループ

グループ名	ユーザーカテゴリ	アクセスのタイプ
<code>spltadm</code>	管理者	プラットフォーム
<code>sdaadm</code>	管理者	ドメイン A
<code>sdbadm</code>	管理者	ドメイン B
<code>sdcadm</code>	管理者	ドメイン C
<code>sddadm</code>	管理者	ドメイン D
<code>spltop</code>	オペレータ	プラットフォーム
<code>sdaop</code>	オペレータ	ドメイン A
<code>sdbop</code>	オペレータ	ドメイン B
<code>sdcop</code>	オペレータ	ドメイン C
<code>sddop</code>	オペレータ	ドメイン D

1. `su` - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `/etc/group` ファイル内の適切なグループに各ユーザーを追加します。
 - Sun Fire プラットフォームの管理者は、`spltadm` に追加して、プラットフォームエージェントのプラットフォーム表示を使用してプラットフォームを管理できるようにします。
 - Sun Fire ドメインの管理者は、適切なドメイン管理者グループに追加します。たとえば `sdaadm` にドメイン管理者を追加すると、プラットフォームを使用してドメインを管理できるようになります。
3. `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに各ユーザーを追加します。

プラットフォームエージェントの起動

es-start スクリプトには、3つのオプションがあります。

- -A オプションはすべてのエージェントを起動します。
- -l オプションはデフォルトのプラットフォームエージェントを起動します。
- -y オプションは指定されたエージェントだけ起動します。

▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力することによって、デフォルトのプラットフォームエージェントを起動します。

```
# ./es-start -l
```

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

3. 以下を入力することによって特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを起動します。

```
# ./es-start -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-start -y P1
```

▼ すべてのエージェントを起動する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力することによってすべてのエージェントを起動します。

```
# ./es-start -A
```

プラットフォームエージェントの停止

es-stop スクリプトには、3つのオプションがあります。

- -A オプションはすべてのエージェントを停止します。
- -l オプションはデフォルトのプラットフォームエージェントを停止します。
- -y オプションは指定されたエージェントだけ停止します。

▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力することによって、デフォルトのプラットフォームエージェントを停止します。

```
# ./es-stop -l
```

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。

3. 以下を入力することによって特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを停止します。

```
# ./es-stop -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -y P1
```

▼ すべてのエージェントを停止する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力することによってすべてのエージェントを停止します。

```
# ./es-stop -A
```

設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除

Sun Fire システムを監視する必要がなくなった場合は、対応するプラットフォームエージェントまたはインスタンスの設定を取り消し、削除することによってシステムリソースを節約することができます。

▼ Sun Fire のデフォルトのプラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す

1. `$BASEDIR/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
`$BASEDIR` は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center がインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
2. 以下を入力することによって、デフォルトのプラットフォームエージェントの設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u
```

▼ Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す

1. `su -` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `$BASEDIR/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
`$BASEDIR` は、Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center がインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
3. 以下を入力することによって、特定のプラットフォームエージェントの設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u -I instanceName
```

注 – 設定を取り消すと、対応する Sun Management Center エージェントが停止します。エージェントを再起動します。

▼ プラットフォームエージェントを削除する

1. su - コマンドでスーパーユーザーになります。
2. \$BASEDIR/sbin ディレクトリに移動します。\$BASEDIR は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。
3. 以下を入力することによって、プラットフォームエージェントのインスタンスを削除します。

```
# ./es-platform -d instanceName
```

COD (Capacity on Demand) の監視

▼ 別売りの COD (Capacity on Demand) の監視の設定をする

注 - COD には、特別な設定は必要ありません。

別売りの COD (Capacity on Demand) を監視するには、以下の条件に従う必要があります。

1. Ethernet ポート (ネットワーク接続) を使用して、システムにシステムコントローラを接続します。
2. Sun Management Center ワークステーションからシステムコントローラを管理できるようにします。
3. 中断なしで Sun Management Center サーバーおよびエージェントを実行して、つねにシステムコントローラと通信できるようにします。

4. Sun Management Center ワークステーションがサンに電子メールを送信できるようにします。

COD の監視にあたり、COD ソフトウェアはシステムコントローラと通信し、COD ログファイルを作成、監視します。この COD ログファイルは、サンに電子メールで送信する必要があります。

ドメインの設定

ここでは、2 種類のドメインを取り上げます。

- Sun Management Center 管理ドメイン - 1 つ以上のホストシステムの集まりです。たとえば、管理ドメインは、コンピュータ研究所にあるすべてのサーバーとワークステーションで構成できます。
- ハードウェアドメイン - Sun Fire プラットフォーム内のコンポーネントの一部。たとえば、複数の CPU ボードと複数の入出力ボードからなるプラットフォームは、複数のドメインに分割できます。このとき、各ドメインは 1 つ以上の CPU ボードと 1 つ以上のネットワーク接続で構成されます。ハードウェアドメインは、それぞれ専用の Solaris オペレーティング環境を実行します。

▼ ハードウェアドメインを作成する

出荷時の Sun Fire システムは、ハードウェアドメイン 1 つ (ドメイン A) の構成になっています。システム管理者は、追加のハードウェアドメインを作成することができます。Sun Fire 6800 システムは最大 4 つ、Sun Fire 4810/4800/3800 システムは最大 2 つのハードウェアドメインを構成することができます。

- Sun Fire システム上に追加のハードウェアドメインを作成する方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』(パーツ番号 806-7904-10) を参照してください。

▼ 管理ドメインを作成する

- 管理ドメインを作成して、メンバーを登録する方法については、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』(パーツ番号 806-7237) を参照してください。

第3章

プラットフォームエージェントによるプラットフォームとドメインの管理

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバーのプラットフォーム管理手順と機能を説明します。

この章で取り上げるトピックは次のとおりです。

- 31 ページの「Sun Fire プラットフォーム管理モジュール」
- 36 ページの「ドメイン管理者によるプラットフォームエージェントを使ったドメインアクセス」
- 43 ページの「プラットフォーム管理者によるプラットフォームエージェントを使ったプラットフォームアクセス」
- 54 ページの「Sun Fire システムの物理表示と論理表示」

Sun Fire プラットフォーム管理モジュール

Sun Fire システムの場合は、プラットフォーム管理手順には、Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを利用します。このモジュールは、オブジェクト詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブ内の「ハードウェア」カテゴリに読み込まれます。

これらに対応する表示のデータを見ることができるのは、適切なアクセス権限を持つユーザーだけです。たとえば、プラットフォームとドメイン A へのアクセス権限をもつユーザーは、プラットフォームとドメイン A のデータを表示することはできますが、ドメイン B や C、D のデータを表示することはできません。

図 3-1 は、ユーザーがプラットフォーム管理モジュールにアクセスした後のモジュールの階層表示を示しています。

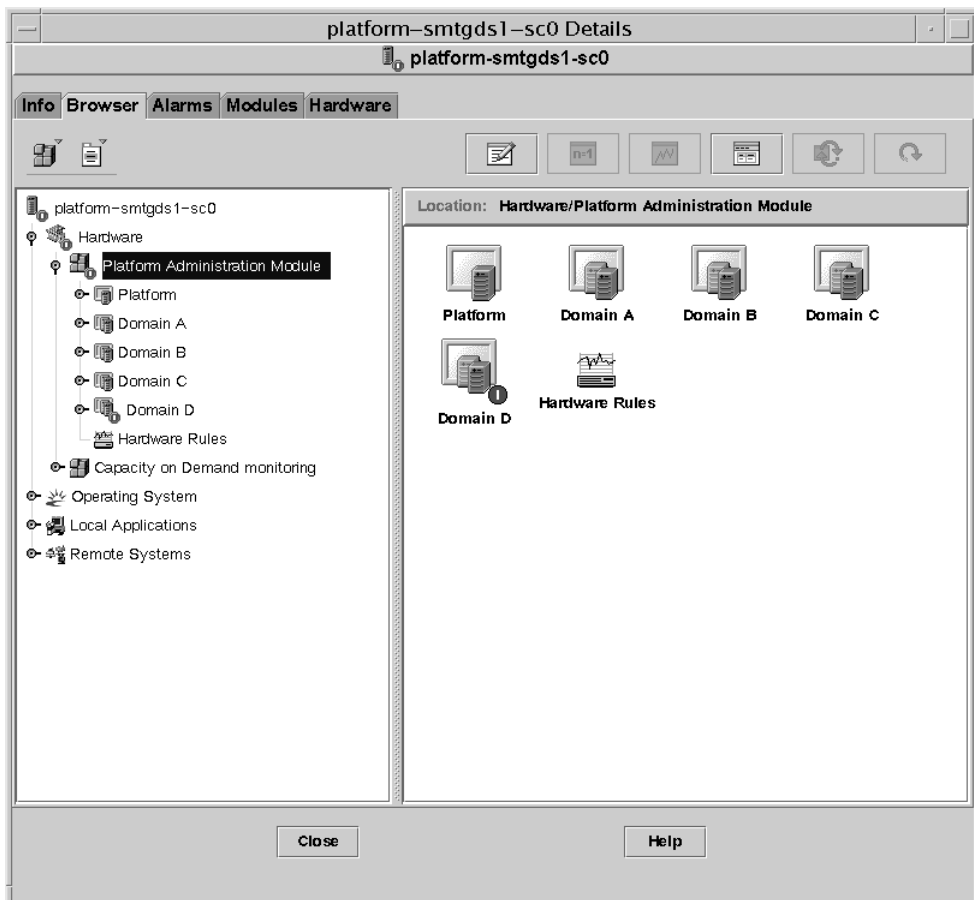


図 3-1 ハードウェアプラットフォーム管理モジュール

▼ Sun Fire のオブジェクトを作成する

1. メインコンソールウィンドウから、「編集」▶「オブジェクトの作成」を選択します。「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、このウィンドウで最初に表示されるタブは「ノード」タブです(図 3-2)。

注 – この後の例の図では、Sun Fire オブジェクトが 1 つだけ示されています。実際には、その他の種類のオブジェクトが存在することがあります。

図 3-3 は、すべてのプラットフォームを示している「複合」タブの例です。

2. オブジェクトクラスか「ノード」、「複合」をクリックし、「オブジェクト」リストからオブジェクトのタイプを選択します。

オブジェクトリストの横に、選択されたオブジェクトに対応するアイコンが表示されます。

3. 必要な入力を行います。
4. 最後に次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
 - ヘルプブラウザにこのダイアログのヘルプページを表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

注 – 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center 内のオブジェクトの作成に対応するヘルプページが表示されます。

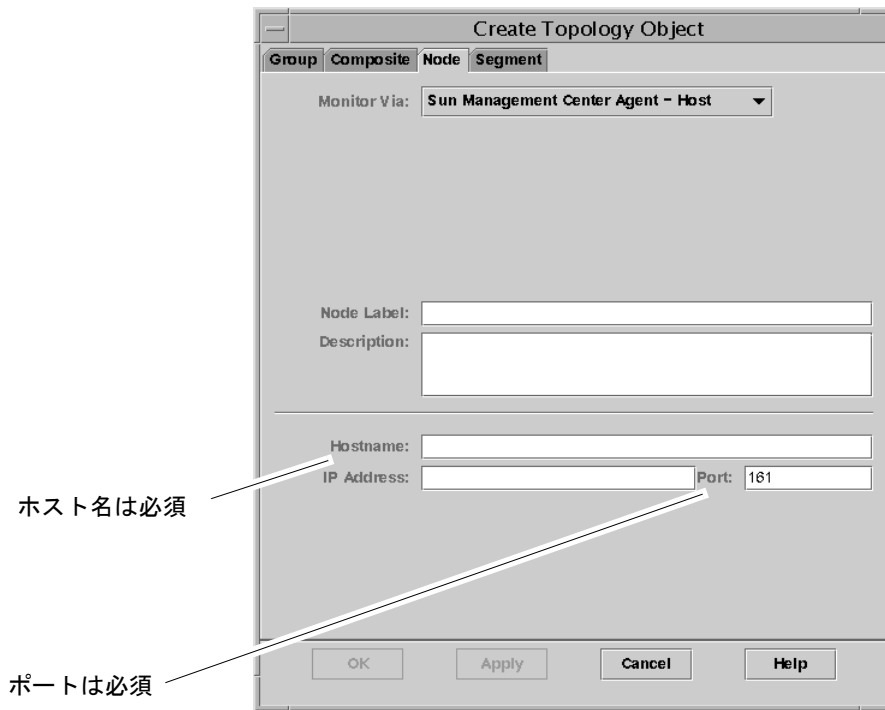


図 3-2 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ

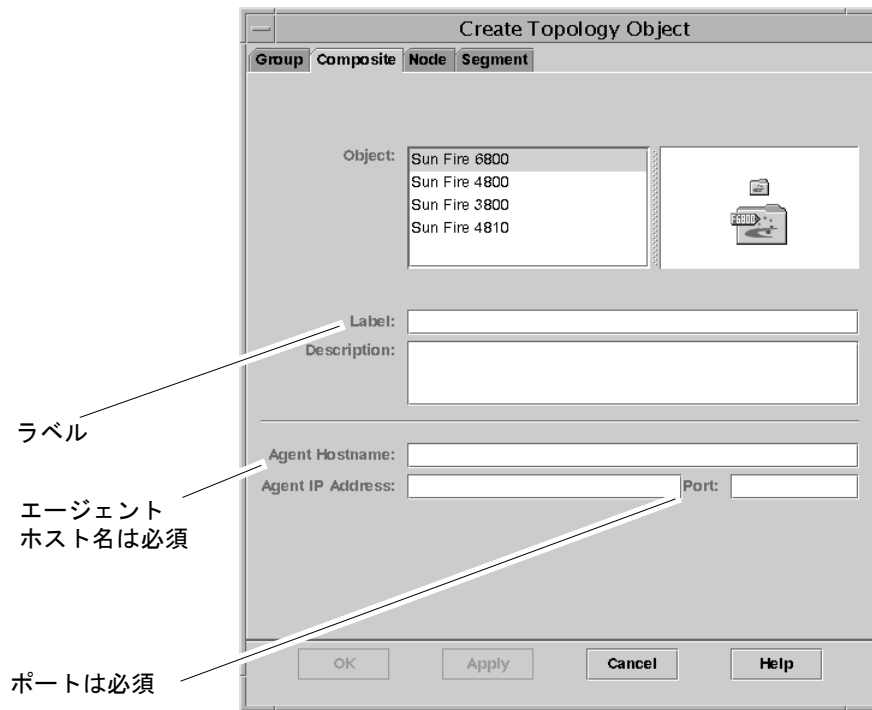


図 3-3 「複合」タブの Sun Fire システム表示例

ドメイン管理者によるプラットフォームエージェントを使ったドメインアクセス

ドメイン管理者は、対応するドメインノードのすべてのテーブルを表示することができます。たとえば、ドメイン A のドメイン管理者は、ドメイン A 内のすべてのテーブルを表示することができます (図 3-4)。

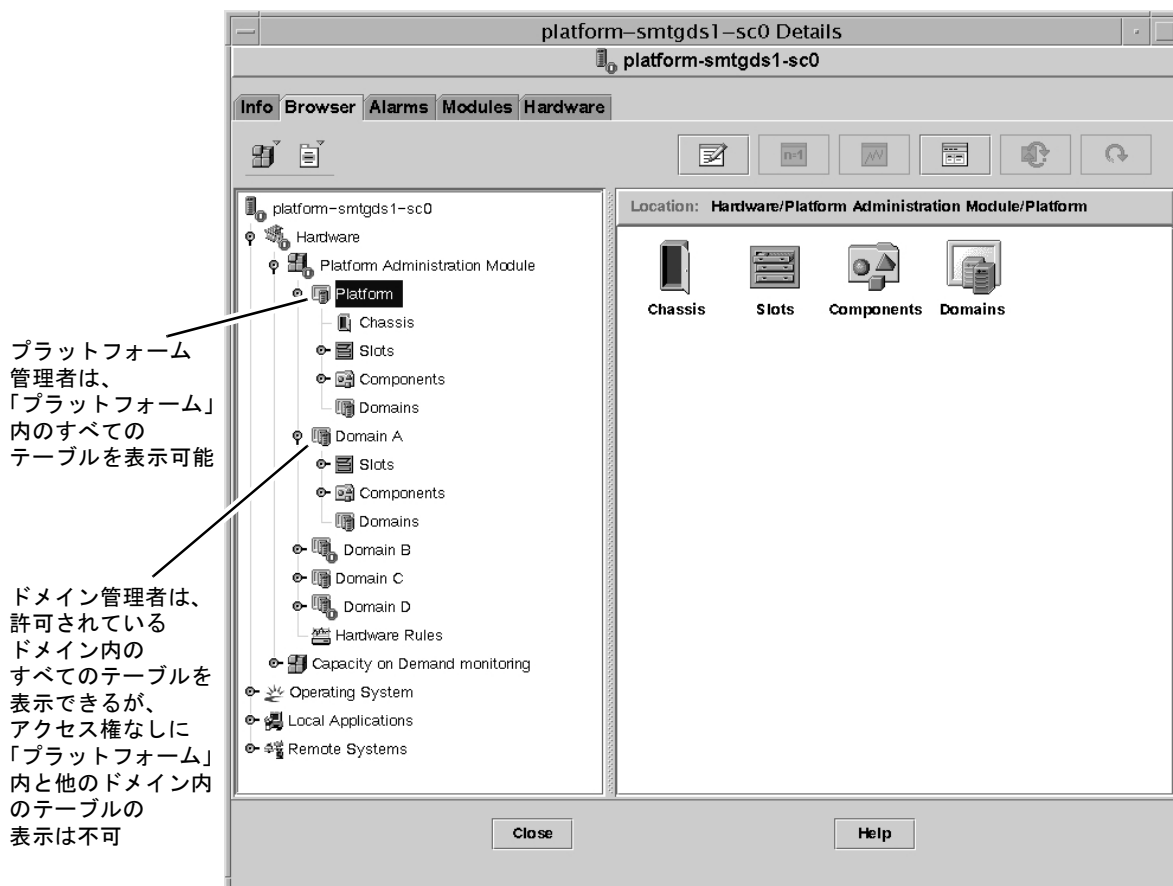


図 3-4 Sun Fire プラットフォームオブジェクトの「詳細」ウィンドウ

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます (図 3-5)。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

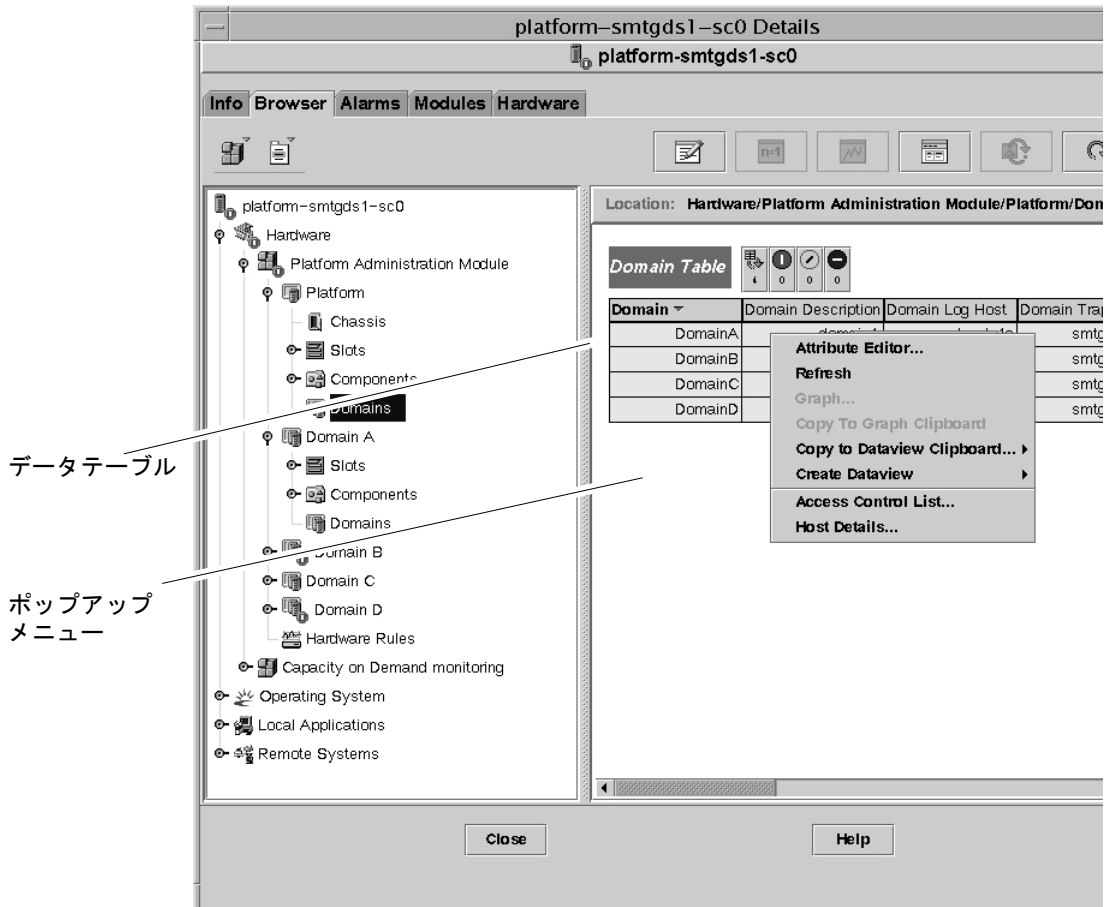


図 3-5 「ブラウザ」ウィンドウのドメインテーブル

表 3-1 は、ポップアップメニューに表示される項目の種類と、それらの項目で行うことができる操作をまとめています。

表 3-1 ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
FRU インデックスエントリを持つ「スロット」および「コンポーネント」テーブル	FRU 情報の表示
ドメイン	キースイッチ、ログホストの設定、ホスト詳細の表示と管理

表 3-2 は、一般的に行うことができる操作とその機能をまとめています。

表 3-2 テーブルの操作

操作	機能
キースイッチ ...	ドメインの仮想キースイッチ位置を変更できます。図 3-6 は、「キースイッチ ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
ログホストの設定 ...	ドメインの SNMP トラップと syslog ホストを設定できます。図 3-7 は、「ログホストの設定 ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
FRU 情報	選択したコンポーネントの FRU 情報を表示できます。図 3-15 は、「FRU 情報」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
テーブルのソート	条件を変えてドメインテーブルをソートできます。ドメインテーブルの列の見出しをクリックすると、その見出しを基準にテーブルがソートされます。たとえば、「状態」列をクリックすると、「状態」を基準にテーブルがソートされます。ソートの順序 (昇順と降順) は、同じ列見出しを再度クリックすることによって交互に切り替えることができます。現在ソートされている列見出しは太字で表示され、現在のソート順序は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、ドメインテーブルはドメイン ID を基準に昇順にソートされます。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します。

以下では、これらの操作を実際に行う方法を説明します。

▼ ドメインの仮想キースイッチ設定を変更する

「キースイッチ」メニュー項目は、すべてのドメイン (ドメイン A、B、C、D) に用意されています。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「キースイッチ ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」▶「プラットフォーム管理モジュール」▶「ドメイン X」▶「ドメイン」▶「データテーブルのメニュー」▶「キースイッチ ...」です。

「キースイッチ」ダイアログが表示されます (図 3-6)。このダイアログには、仮想キースイッチの現在の設定位置が示されます。

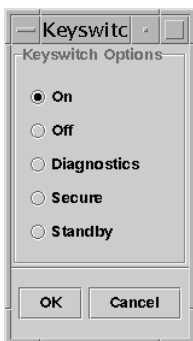


図 3-6 「キースイッチ」ダイアログ

システムコントローラがネットワークに接続されている場合は、キースイッチ位置を 5 つあるモードのうちの 1 つに変更できます。システムコントローラがネットワークに接続されていない場合、このオプションは選択できません。

5 つのモードは次のとおりです。

■ On

ドメインの電源がすでに入っている状態で「On」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

■ Off

ドメインが Solaris オペレーティング環境 を実行している状態で「Off」を選択すると、確認ダイアログが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がオフになり、低電力モードになって、シャージからのボードの取り外しが可能な状態になります。

- Diagnostic

ドメインの電源がすでに入っている状態で「Diagnostic」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

- Secure

ドメインの電源がすでに入っている状態で「Secure」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

- Standby

ドメインが Solaris オペレーティング環境 を実行している状態で「Standby」を選択すると、確認ダイアログが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がスタンバイになりますが、低電力モードにはなりません。

3. 最後に次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、ダイアログの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ドメインのログホストを設定する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ログホストの設定 ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは次のとおりです。

- 「ハードウェア」 ▶ 「プラットフォーム管理モジュール」 ▶ 「ドメイン X」 ▶ 「ドメイン」 ▶ データテーブルのメニュー ▶ 「ログホストの設定 ...」
- 「ハードウェア」 ▶ 「プラットフォーム管理モジュール」 ▶ 「プラットフォーム」 ▶ 「シャーシ」 ▶ データテーブルのメニュー ▶ 「ログホストの設定 ...」

「ログホストの設定」ダイアログが表示されます (図 3-7)。

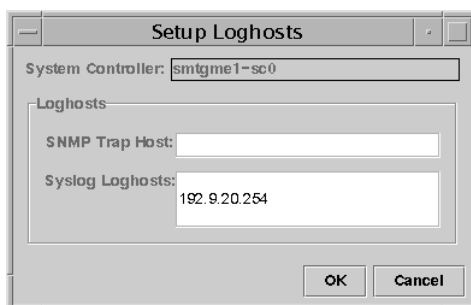


図 3-7 「ログホストの設定」ダイアログ

3. このダイアログでは、SNMP トラップホストと syslog ログホストの値を変更することができます。
1 行に 1 つの IP アドレスまたはノード名を入力することによって複数のログホストを指定できます。
4. 最後に次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」ダイアログには、特定のコンポーネントの FRU 情報が表示されます。

このダイアログ内の情報を変更することはできません。このダイアログは読み取り専用です。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「FRU 情報 ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」▶「プラットフォーム管理モジュール」▶「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)▶「スロット」(または「コンポーネント」)▶カテゴリ▶データテーブルのメニュー▶「FRU 情報 ...」です。

「FRU 情報」ダイアログが表示されます (図 3-15)。

3. 「了解」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

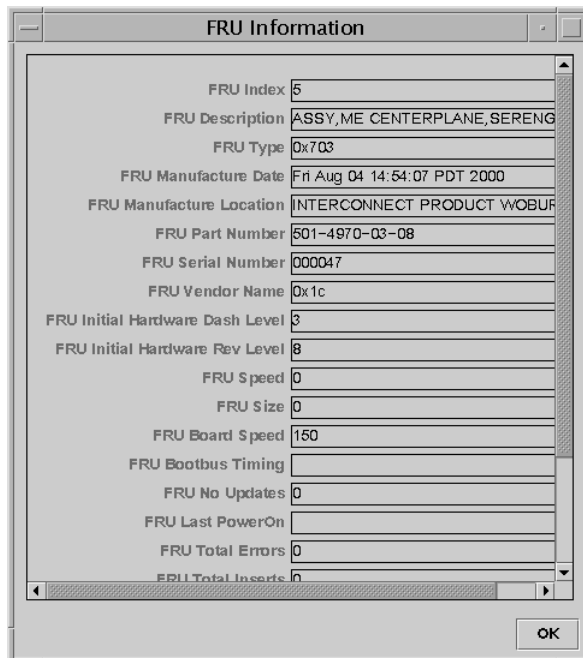


図 3-8 「FRU 情報」ダイアログ

▼ ホスト詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

2. 「ホスト詳細 ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」▶「プラットフォーム管理モジュール」▶「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)▶「ドメイン」▶「データテーブルのメニュー」▶「ホスト詳細 ...」です。

対応するハードウェアドメインのホスト詳細ウィンドウが表示されます。

3. 「了解」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

プラットフォーム管理者によるプラットフォームエージェントを使ったプラットフォームアクセス

プラットフォーム管理者は、「プラットフォーム管理モジュール」▶「プラットフォーム」内のすべてのテーブルを表示できます。

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

表 3-3 は、メニューに表示されるエントリと行うことができる操作をまとめています。

表 3-3 プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
シャーシ	<ul style="list-style-type: none">• ログホストの設定• FRU 情報
「スロット」▶「未使用スロット」	<ul style="list-style-type: none">• なし (ボードが使用不可能な場合)• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
「スロット」▶「CPU ボード」	<ul style="list-style-type: none">• テスト• FRU 情報• 電源の投入 / 切断• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)

表 3-3 プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目 (続き)

テーブル	操作
「スロット」 ▶ 「入出力ボード」	<ul style="list-style-type: none"> • FRU 情報 • 電源の投入 / 切断 • 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
「スロット」 ▶ 「L2 リピータ」	<ul style="list-style-type: none"> • FRU 情報
「スロット」 ▶ 「ファン」	<ul style="list-style-type: none"> • 電源の投入 / 切断 • FRU 情報
「スロット」 ▶ 「電源装置」	<ul style="list-style-type: none"> • 電源の投入 / 切断 • FRU 情報
「スロット」 ▶ 「SC」	<ul style="list-style-type: none"> • SC のネットワーク設定 • FRU 情報
ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> • ACL • ホスト詳細
「コンポーネント」 ▶ すべてのテーブル	なし

表 3-4 は、行うことができるすべての操作とその機能をまとめています。

表 3-4 テーブル操作メニューの項目

操作	機能
割り当て ... / 割り当て解除	ボードを割り当てたり、割り当て解除したりできます。図 3-9 は、「割り当て ...」メニュー項目を選択したときに表示されるダイアログを示しています。「割り当て解除」メニュー項目を選択した場合は、確認ダイアログが表示されます。「割り当て ...」または「割り当て解除」のどちらのメニュー項目が表示されるかは、ボードの状態によって異なります。ボードがすでに割り当て状態の場合、「割り当て ...」は表示されません。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
電源オン / 電源オフ	ボードの電源を入れたり、切ったりできます。操作の確認を求める確認ダイアログが表示されます。ボードがアクティブな状態である場合、このオプションは表示されません。
テスト ...	ボードをテストできます。操作の確認を求める確認ダイアログが表示されます (図 3-12)。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
アクセス制御リスト ...	アクセス制御リスト (ACL) を操作できます。図 3-13 は、「アクセス制御リスト ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します。
システムコントローラの設定 ...	SC の設定情報を表示、変更できます。図 3-13 は、「システムコントローラの設定 ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。

表 3-4 テーブル操作メニューの項目 (続き)

操作	機能
ログホストの設定 ...	シャーシのログホストとトラップホストを設定できます。図 3-14 は、「ログホストの設定 ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
FRU 情報 ...	選択したコンポーネントの FRU 情報を表示できます。図 3-15 は、「FRU 情報 ...」を選択したときに表示されるダイアログを示しています。
テーブルのソート	テーブルの行をソートできます。この操作の影響を受けるのはテーブルの列だけです。スロットテーブルの列の見出しを選択すると、その列の昇順に行がソートされます。たとえば、「電源」列を選択すると、電源がオフのボードから順にテーブルがソートされます。ソートの順序 (昇順と降順) は、同じ列見出しを再度クリックすることによって交互に切り替えることができます。現在ソートされている列の見出しは太字で表示され、現在のソート順は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、スロットテーブルはスロット番号を基準に昇順にソートされます。

エラーが発生した場合は、オブジェクト詳細の「ブラウザ」ウィンドウの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ 使用可能なボードを割り当てる

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「割り当て」を選択します。

注 - ボードは 1 つのドメインにのみ割り当てることができます。

「割り当て」ダイアログが表示されます (図 3-9)。

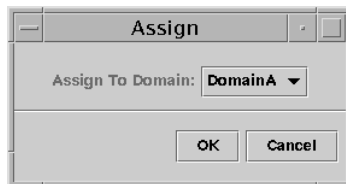


図 3-9 「割り当て」ダイアログ

3. 「割り当て先のドメイン」 ボタンを右クリックして、すべてのドメインのプルダウンリストを表示します。
4. ドメインリストからドメインを選択し、「了解」 ボタンをクリックして、選択したドメインにボードを割り当てます。
5. 最後に次のいずれかの操作をします。
 - ドメインに選択したボードを割り当てて、ウィンドウを閉じてもよければ、「了解」 をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」 をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て」 ダイアログの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードを割り当て解除する

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「割り当て解除」 を選択します。

「割り当て解除」 ダイアログが表示されます (図 3-10)。

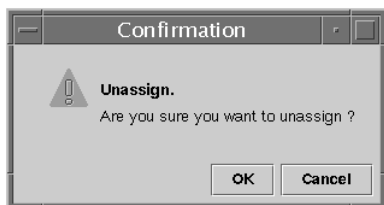


図 3-10 「割り当て解除」 ダイアログ

3. 最後に次のいずれかの操作をします。
 - ドメインへの選択したボードの割り当てを解除して、ウィンドウを閉じてもよければ、「了解」 をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」 をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て解除」 ダイアログの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードの電源をオンまたはオフにする

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

ボードの電源の状態は PoweredOn か PoweredOff のいずれかで、交互に切り替えることができます。

2. 「電源オフ」(または「電源オン」)を選択します。

対応するダイアログが表示されます。図 3-11 は「電源オフ」ダイアログです。



図 3-11 「電源オフ」ダイアログ

3. 最後に次のいずれかの操作をします。

- 選択したボードの電源をオンまたはオフにして、ウィンドウを閉じてもよければ、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「電源オフ(または電源オン)」ダイアログの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードをテストする

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「テスト」を選択します。

「テスト」ダイアログが表示されます。図 3-12 は、テスト時間に関するメッセージの入った、選択されたボードの「ボードのテスト」ダイアログを示しています。

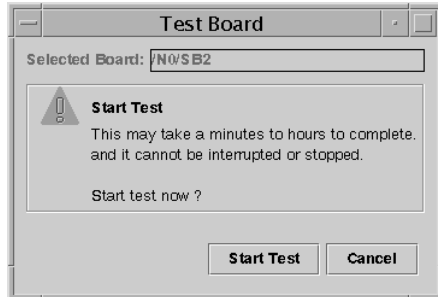


図 3-12 「ボードのテスト」ダイアログ

注 - このダイアログは、割り当てられてはいるが、切断されているボード、または使用可能なボードに対してのみ表示されます。

「取り消し」ボタンがクリックされた場合は、何の処理も行わずにダイアログが閉じます。

3. テストを開始するには、「開始」ボタンをクリックします。

実行するテストの種類を選択することができ、ダイアログの最下部の状態メッセージフィールドには、テストの状態が表示されます。テストには、長い時間がかかることがあります。テスト中、ダイアログにはビジーカーソルが表示されます。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

4. 最後に次のいずれかの操作をします。

- ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- テスト要求を取り消す場合は、「中止」をクリックします。テストが開始されると、テストが完了するか、エラーが発生するまで、「中止」ボタンを使用できなくなります。

▼ システムコントローラの設定をする

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「システムコントローラの設定」を選択します。

「システムコントローラのネットワーク設定」ダイアログが表示されます (図 3-13)。

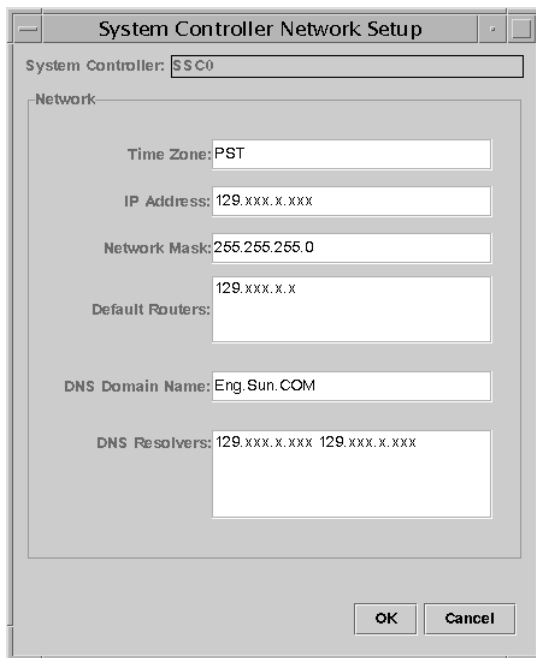


図 3-13 「システムコントローラのネットワーク設定」ダイアログ

3. 必要に応じて個々のフィールドを編集します。

注 – 加えられた変更に対する妥当性の検査は行われません。

4. 次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。
 - ヘルプブラウザにこのダイアログのヘルプページを表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。

情報の読み出し中にエラーが検出された場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

5. IP アドレスを変更した場合は、次の操作を行います。

a. システムコントローラを再起動します。

システムコントローラを再起動しないかぎり、IP アドレスの変更は有効になりません。

b. エージェントマシン上で Sun Fire プラットフォーム管理モジュールの設定手順を再実行します。

18 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照してください。

▼ ログホストを設定する

「ログホストの設定」ダイアログを使用して、システムの SNMP トラップと syslog ホストを設定することができます。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

2. 「ログホストの設定」を選択します。

「ログホストの設定」ダイアログが表示されます (図 3-14)。

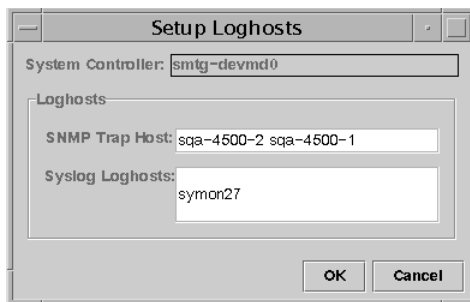


図 3-14 「ログホストの設定」ダイアログ

3. 「システムコントローラ」ボタンを右クリックして、システムコントローラの一覧を表示します。

4. システムコントローラを選択します。

選択されたシステムコントローラの SNMP トラップホストと syslog ホストの情報を提供するダイアログが表示されます。

5. このダイアログで、syslog ログホストを追加したり、変更したりできます。

1 行に 1 つ入力することによって、複数の syslog ホストを指定することができます。

6. 最後に次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、ダイアログの最下部の状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」ダイアログには、特定のコンポーネントの FRU 情報が表示されます。読み取り専用であるため、このダイアログ内の情報を変更することはできません。

1. 「FRU 情報 ...」を選択します。

「FRU 情報」ダイアログが表示されます (図 3-15)。

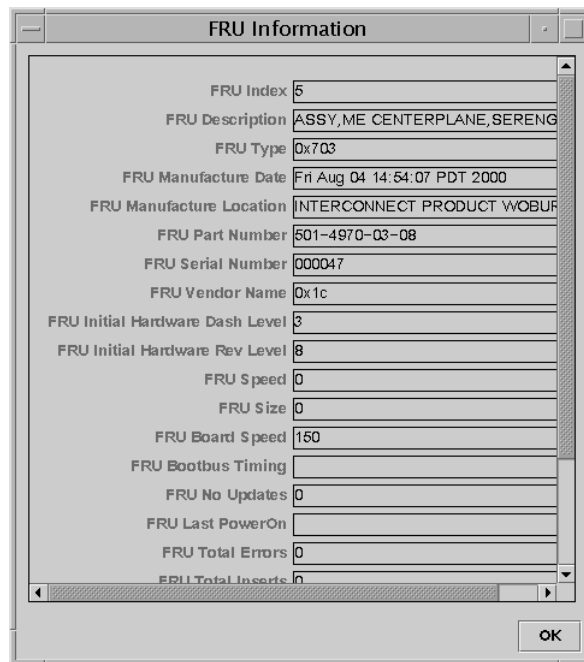


図 3-15 「FRU 情報」ダイアログ

2. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

▼ ホスト詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ホスト詳細」を選択します。
対応するハードウェアドメインのホスト詳細ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する

1. 「アクセス制御リスト ...」を選択します。
「アクセス制御リスト」ダイアログが表示されます (図 3-16)。

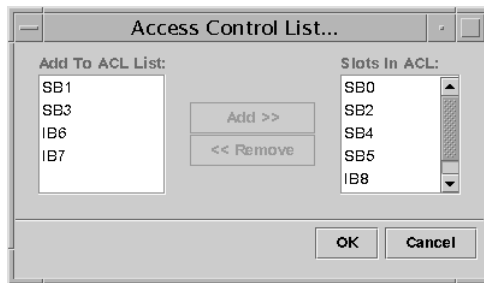


図 3-16 「アクセス制御リスト」ダイアログ

「追加先の ACL リスト」区画は、選択されているドメインの ACL に登録されていないスロットの一覧です。「ACL 内のスロット」区画には、選択されているドメインの ACL に登録されているスロットの一覧が表示されます。

2. 「追加先の ACL リスト」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「追加 >>」ボタンをクリックします。

「ACL 内のスロット」リストに、選択したボードが追加されます。

3. 「ACL 内のスロット」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「<< 削除」ボタンをクリックします。

「ACL 内のスロット」リストから、選択したボードが削除されます。

4. 最後に次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用して、ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

処理で問題が発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

テーブルの行を右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

Sun Fire システムの物理表示と論理表示

Sun Fire システムの物理表示と論理表示は、プラットフォーム管理者とドメイン管理者のどちらも行うことができます。

▼ 物理および論理表示する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire システムのアイコンをダブルクリックします。

「詳細」 ウィンドウが表示されます (図 3-17)。

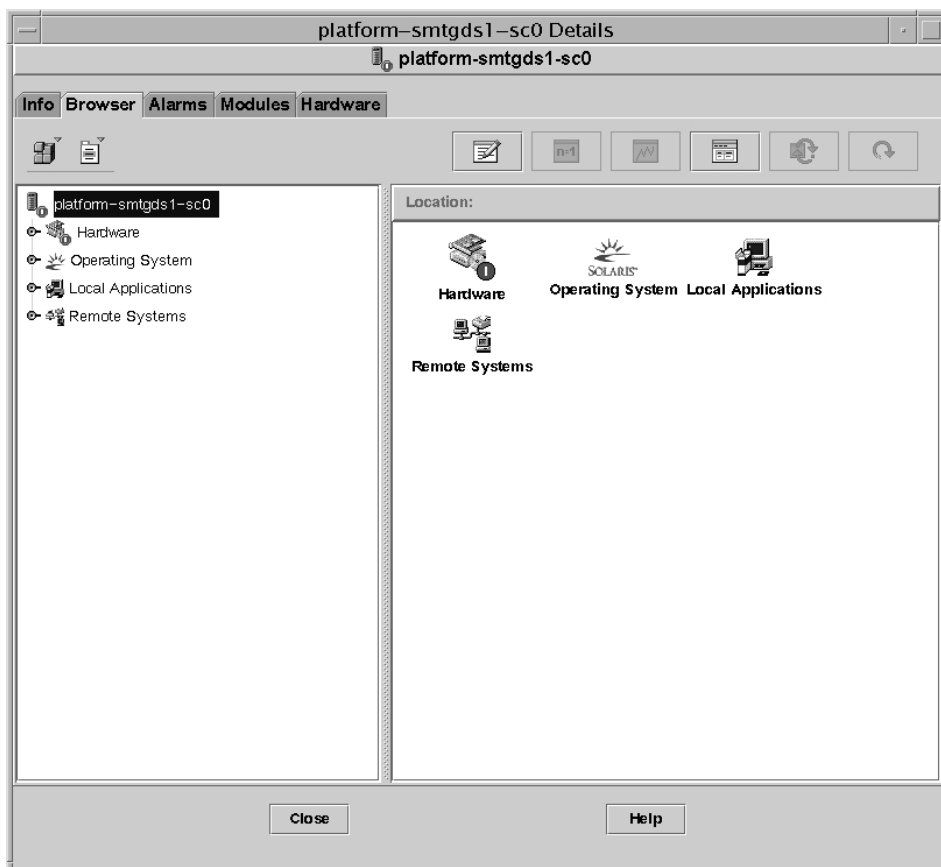


図 3-17 「詳細」 ウィンドウ

2. 「詳細」 ウィンドウから「ハードウェア」タブを選択します。

「ハードウェアの概要」テーブルが表示されます (図 3-18)。

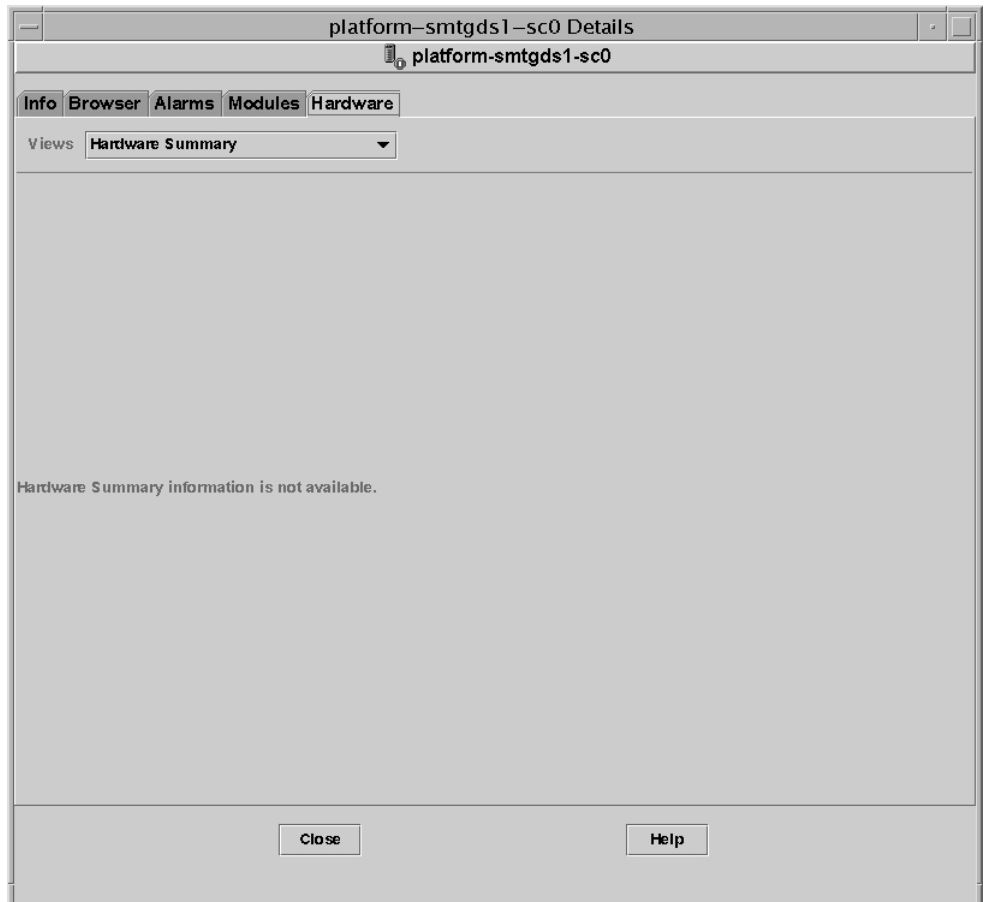


図 3-18 「ハードウェア」タブと「ハードウェアの概要」テーブル

3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」または「論理表示」のシステムを選択します (図 3-19)。

選択された形式でシステムが表示されます。

- 「物理表示」(図 3-20) を選択した場合は、システムの画像上でカーソルをゆっくりと動かしてみてください。現場交換可能ユニット (FRU) のところにカーソルが置かれる、その FRU が強調表示されます。数秒の間カーソルを停止したままにしておくと、「属性」ウィンドウに対応する属性と値が表示されます。

- 「論理表示」(図 3-21) を選択した場合は、アイコンをクリックすることによって、「属性」ウィンドウにその属性を表示できます。アイコンによっては、ダブルクリックすることによって、さまざまなコンポーネントを表示することができます。また「すべて開く」をクリックすると、システム内のすべてのコンポーネントが表示されます。「属性」ウィンドウにはさまざまな属性とその値が表示されます。

物理表示と論理表示に示される属性と値は、構成リーダーによって生成されます。提供される属性と値のテーブルの表示については、69 ページの「構成リーダーモジュールのデータ属性テーブル」を参照してください。プラットフォーム管理のアラーム規則については、表 3-1 を参照してください。

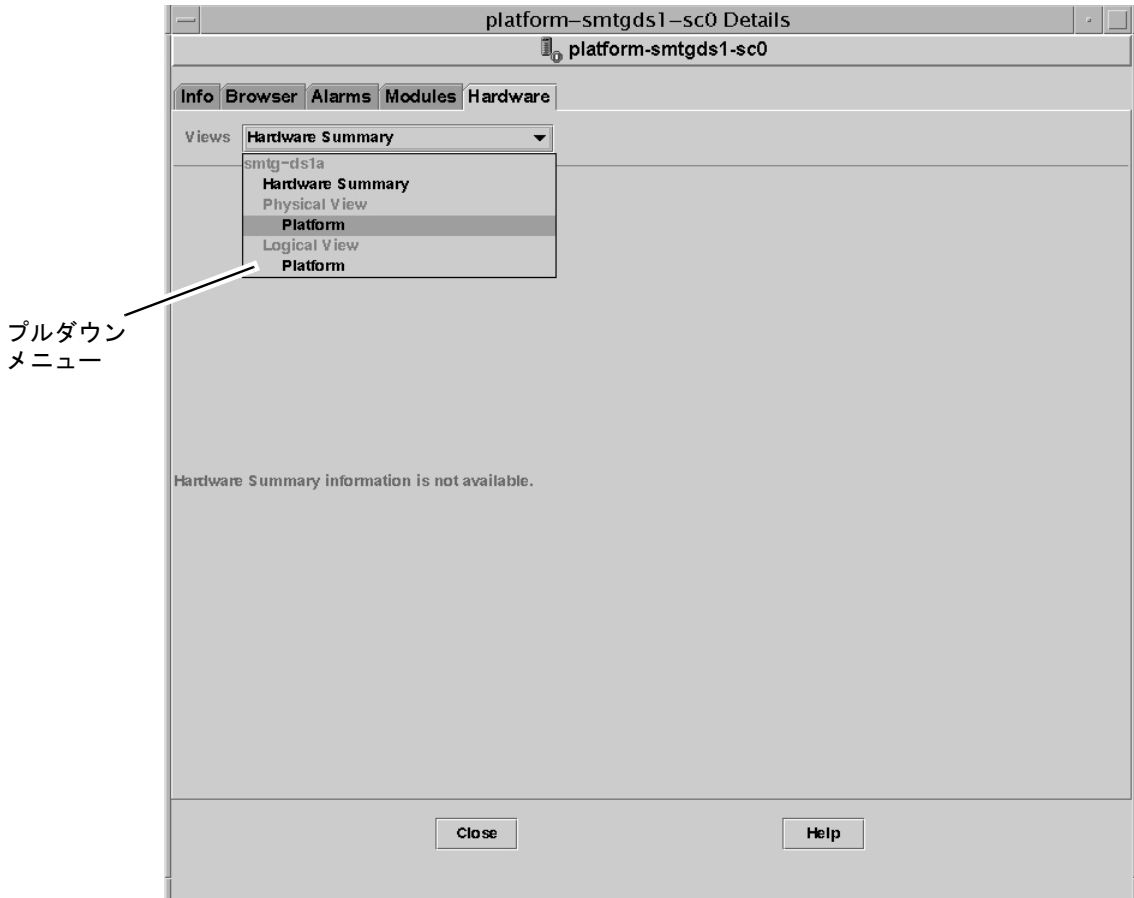


図 3-19 「表示」プルダウンメニュー

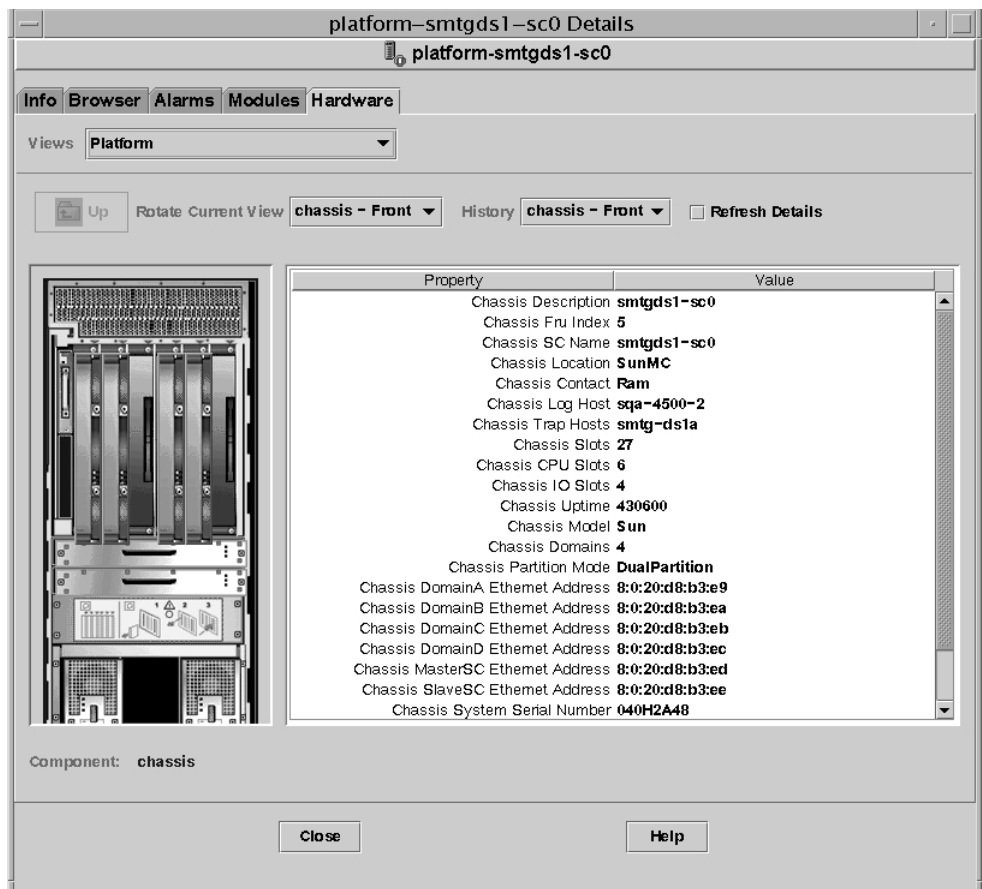


図 3-20 物理表示 (Sun Fire 6800 システムの背面図)

階層表示全体を開くか閉じるには、このボタンをクリック。

セクションを開くか閉じるには、それぞれのキーマークをクリック。

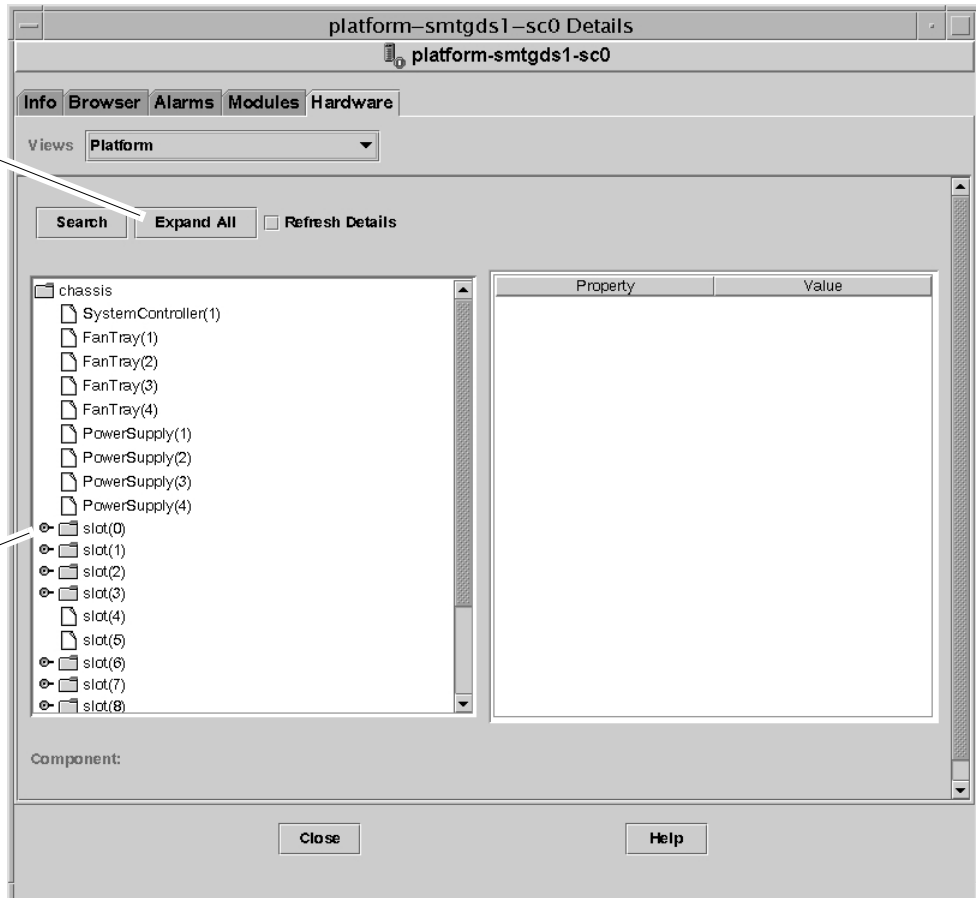


図 3-21 論理表示

論理表示には、表示の通常のボタンの他に、「検索」、「すべて開く」、「詳細を再表示」の3つのボタンがあります。

- 「検索」ボタンはポップアップ式の「検索」ウィンドウを開きます(図 3-22)。「検索」ウィンドウでは、コンポーネント名またはパスを入力し、「検索」ボタンをクリックして、その用語に一致する項目を検出します。検索機能は必要に応じて論理表示の階層を開き、検出した用語を強調表示します。さらに一致する用語を検出するには、「次」ボタンをクリックします。「検索」ウィンドウを閉じるには、「取り消し」ボタンをクリックします。

- 「すべて開く」ボタンは、論理表示に表示されているすべてのアイコンを開いて、システム内のすべてのコンポーネントとサブアセンブリなどを見えるようにします。このボタンをクリックすると、ボタン名が「デフォルトに戻す」に切り替わり、この状態でクリックすると、アイコンの階層を閉じることができます。
- 「詳細を再表示」ボタンは、表示ウィンドウの右側にある属性 / 値テーブルを更新します。



図 3-22 「詳細」ウィンドウの論理表示内の「検索」ボタン

参照 – 検索機能は、英大文字と小文字を区別します。システムからコンポーネントを見つけられなかった場合は、「詳細」ウィンドウの最下部に「ノードが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。また、このメッセージは、検索機能が論理表示の最後に達したときにも表示されます。

参照 – 「ブラウザ」タブでは、類似するすべてのコンポーネントのデータを比較することができます。「ハードウェア」タブの物理表示と論理表示では、システム内の個々のコンポーネントのデータを見ることができます。たとえば、「ブラウザ」タブで DIMM テーブルのアイコンをダブルクリックすると、システム内のすべての DIMM の属性一覧からなるテーブルが表示されます。dimmm(0) の属性を見るには、論理表示の「検索」ボタンを使用します。

物理表示と論理表示についての全般的な情報は、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』を参照してください。

プラットフォーム管理のハードウェア規則

表 3-5 は、Sun Fire プラットフォーム管理のハードウェア規則のアラーム条件をまとめています。

表 3-5 プラットフォーム管理のハードウェア規則

規則 ID	重要度	説明
rspa1000	エラー / 情報	この規則は次のアラームを生成します。 <ul style="list-style-type: none">• 任意のスロットが Failed 状態になったときエラーアラーム• 任意のスロットが OverTemp か UnderTemp 状態になったとき情報アラーム
rspa1001	情報	システム周波数クロックがスレーブにフェイルオーバーしました。
rspa1002	情報	Solaris ドメインの状態に問題があります。
rspa1003	情報	キースイッチの状態が変更されました。
rspa1004	情報	マスター SC がスレーブにフェイルオーバーしました。
rspa1005	情報	この規則は、次の場合に情報アラームを生成します。 <ul style="list-style-type: none">• システムコントローラが起動した。• SC の IP アドレスが変更された。
rspa1006	情報	domainloghost、domaintraphost、chassisloghost、chassistraphost のいずれかに変更が加えられた。
rspa1007	情報	SC または SC の SNMP エージェントから応答がない。

ドメインの管理規則については、表 4-20 と表 4-21 を参照してください。

第4章

ドメインエージェントによるドメインの管理

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバー用のドメインエージェントを使用した、Sun Management Center 3.0 ドメインの管理について説明します。

この章では、次のトピックを取り上げています。

- 61 ページの「管理ドメインの設定」
- 62 ページの「エージェントの起動と停止」
- 62 ページの「ノードの作成」
- 62 ページの「構成リーダーモジュール」
- 69 ページの「構成リーダーモジュールのデータ属性テーブル」
- 79 ページの「構成リーダーの規則」
- 80 ページの「Sun Fire のハードウェア規則」
- 81 ページの「ドメインの物理表示と論理表示」

管理ドメインの設定

この設定は、ユーザーマニュアルで説明している一般的な手順で行うことができます。『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』（パーツ番号 806-7237）を参照してください。

エージェントの起動と停止

『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』(パーツ番号 806-7237) を参照してください。

ノードの作成

この設定は、ユーザーマニュアルで説明している一般的な手順で行うことができます。『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』(パーツ番号 806-7237) を参照してください。

構成リーダーモジュール

構成リーダーモジュールの 1 つである Sun Fire (3600-6800) 構成リーダーは、インストール中に自動的に読み込まれます。この構成リーダーモジュールを使用して、ホストの物理表示や論理表示を行うことができます。

また、構成リーダーモジュールはハードウェアを監視し、問題が発生すると警告を発生します。たとえば、構成リーダーモジュールは DIMM モジュールのエラーの有無を調べたり、ボードの温度や電源装置の状態を監視したりします。

「構成リーダー」アイコンは、「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」アイコン内にあります (図 4-3)。

▼ 構成リーダーモジュールを使用する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire システムのアイコンをダブルクリックします。

「詳細」ウィンドウが表示されます (図 4-2)。

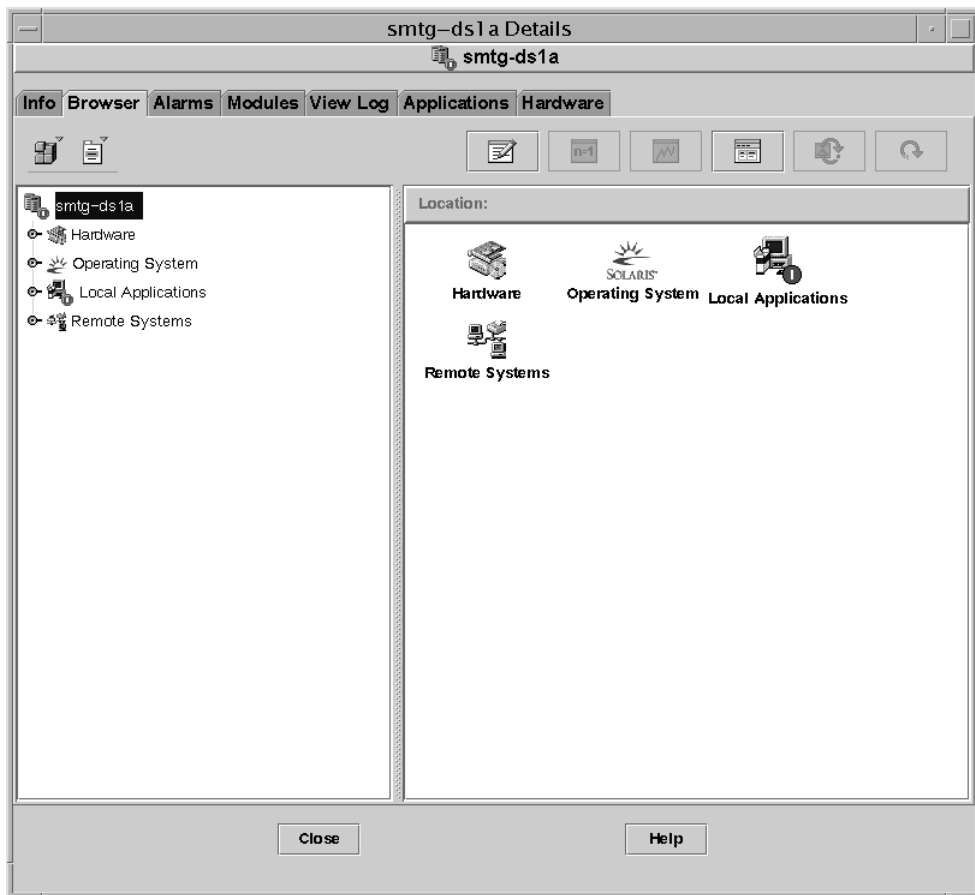


図 4-1 「詳細」 ウィンドウ

2. 「詳細」 ウィンドウから「ハードウェア」タブを選択します。

「Sun Fire (3800-6800) 構成リーダー」アイコンと「Sun Fire (3800-6800) 規則」アイコンが表示されます (図 4-2)。

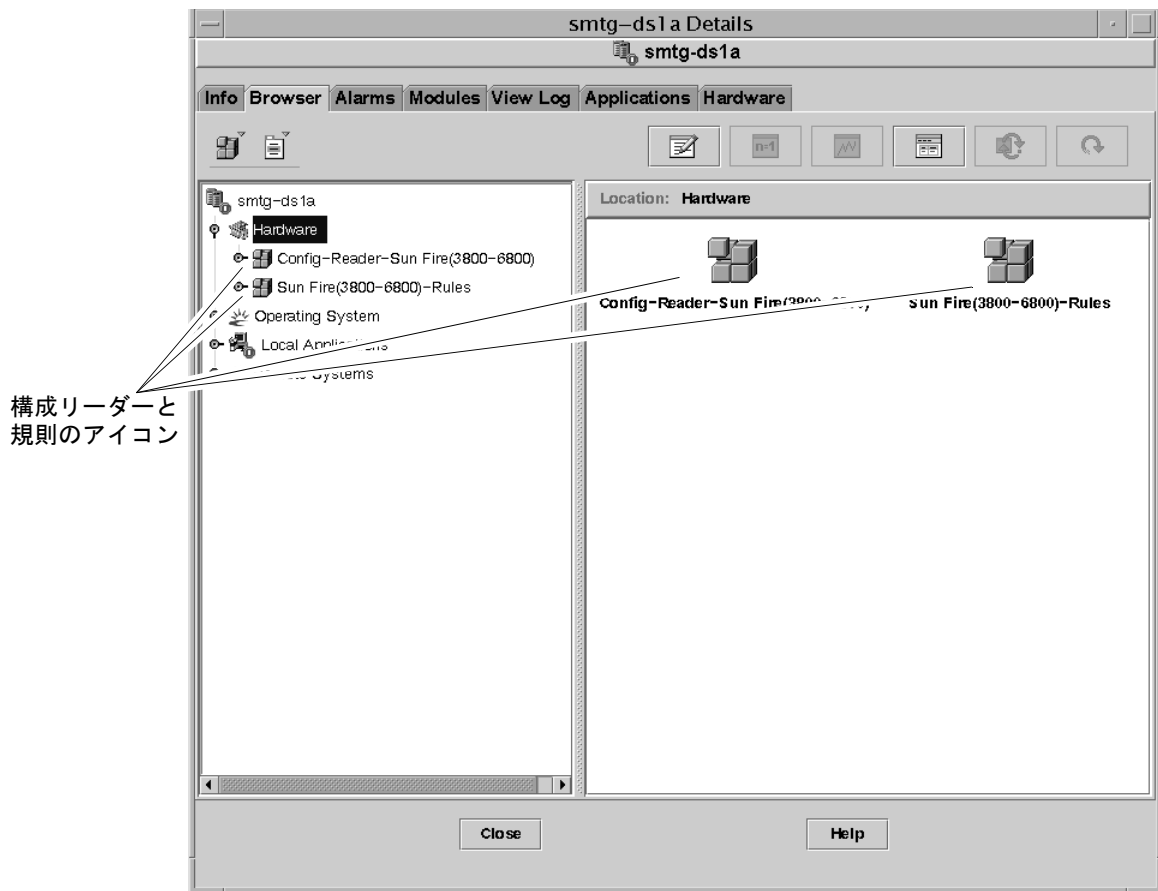


図 4-2 構成リーダーと規則のアイコン

3. これで、次のいずれかの操作を行うことができます。

- 「Sun Fire (3800-6800) 構成リーダー」アイコンをダブルクリックしてシステム内のすべてのデバイスを表示し (図 4-3)、デバイスのアイコンをダブルクリックして、その属性と値を表示する。
- 「Sun Fire (3800-6800) 規則」アイコンをダブルクリックして規則のアイコンを表示し (図 4-4)、規則のアイコンをダブルクリックしてその属性と値を表示する。

提供される属性と値の表示については、69 ページの「構成リーダーモジュールのデータ属性テーブル」を参照してください。構成リーダーのアラームを発生させる障害については、80 ページの「Sun Fire のハードウェア規則」を参照してください。

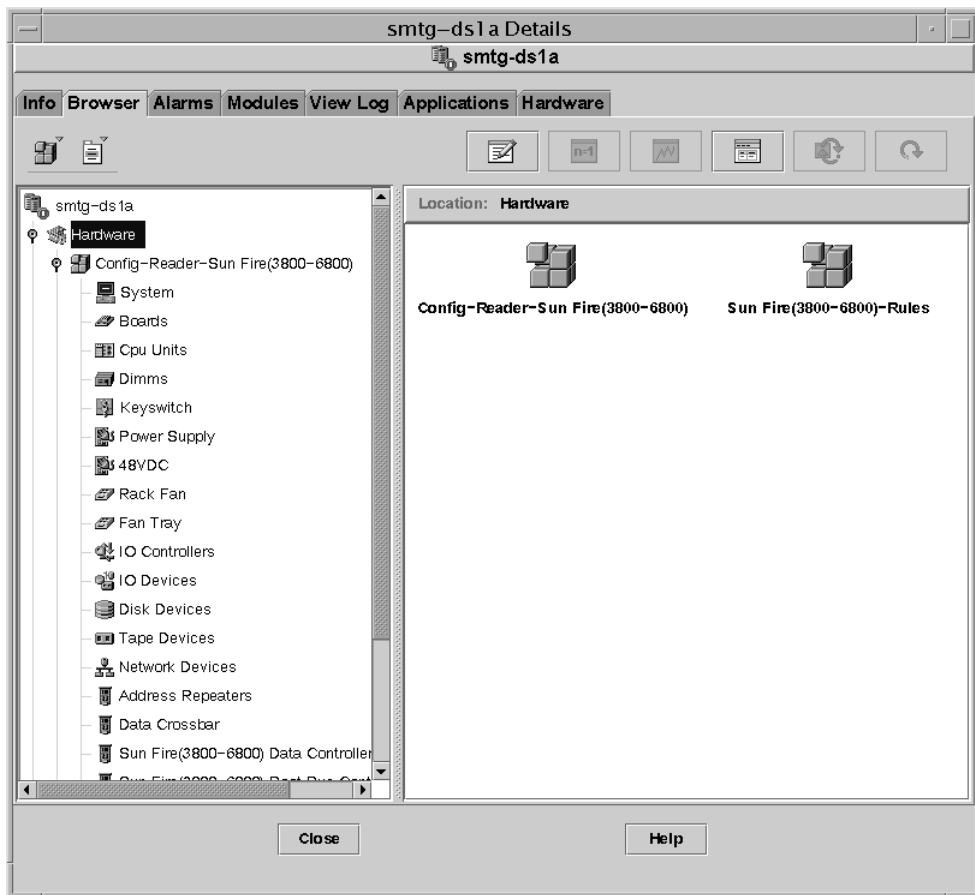


図 4-3 構成リーダー

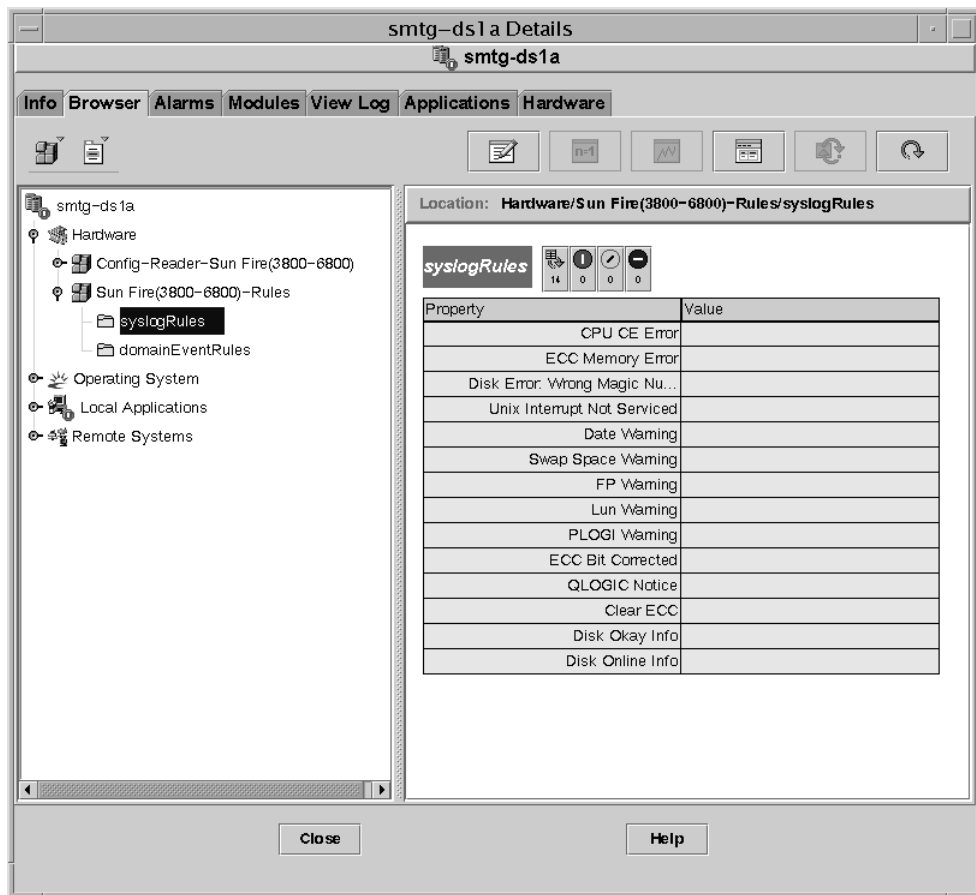


図 4-4 Sun Fire 規則テーブル

構成リーダーモジュールの読み込み

Sun Fire システムの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブに、Sun Fire (3800-6800) 構成リーダーモジュールまたは Sun Fire (3800-6800) 規則モジュールのアイコンが表示されない場合は、対応するモジュールが読み込まれていません。その場合は、以下に示す手順でいずれか一方または両方のモジュールを手動で読み込みます。

▼ モジュールを読み込む

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire システムのアイコンをダブルクリックします。

「詳細」ウィンドウが表示されます (図 4-2)。

2. 「詳細」ウィンドウの「モジュール」タブをクリックします。

モジュールのデータが表示されます (図 4-5)。

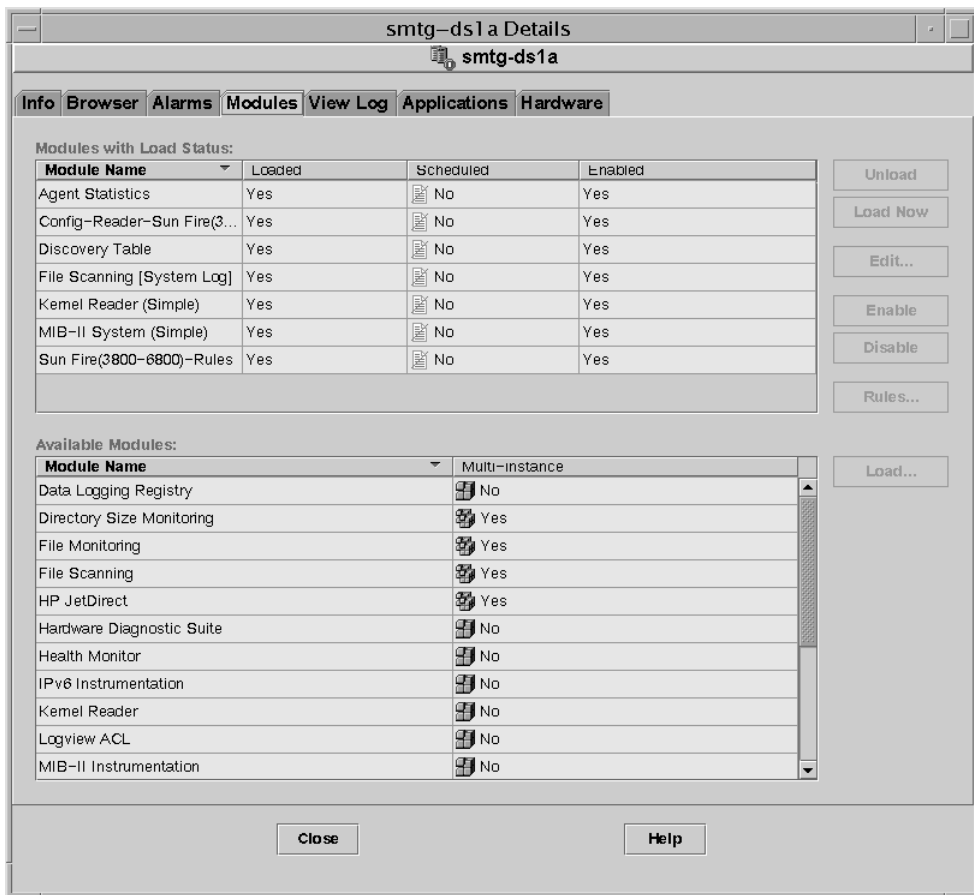


図 4-5 「詳細」 ウィンドウの「モジュール」タブ

3. 「使用可能なモジュール」一覧から Sun Fire (3800-6800) 構成リーダーまたは Sun Fire (3800-6800) 規則を選択して、「読み込み」をクリックします。

「モジュールローダー」ポップアップウィンドウが表示されます。

4. このウィンドウの「了解」ボタンをクリックします。

適切なセキュリティ権限があると、ポップアップウィンドウが閉じ、選択したモジュールが「モジュールの読み込み状態」一覧に移動します。

適切なセキュリティ権限がない場合は、ポップアップウィンドウにエラーメッセージが表示されます。

構成リーダーモジュールのデータ属性 テーブル

この節では、構成リーダーモジュールの次のデータ属性テーブルをまとめています。

- 70 ページの「システム」
- 70 ページの「ボードテーブル」
- 72 ページの「CPU ユニットテーブル」
- 72 ページの「DIMM テーブル」
- 73 ページの「キースイッチ」
- 73 ページの「電源装置テーブル」
- 73 ページの「DC 48V テーブル」
- 74 ページの「ラックファン」
- 74 ページの「ファントレーテーブル」
- 74 ページの「入出力コントローラテーブル」
- 74 ページの「入出力コントローラテーブル」
- 76 ページの「ディスクデバイステーブル」
- 76 ページの「テープデバイステーブル」
- 77 ページの「ネットワークデバイステーブル」
- 77 ページの「アドレスリピータテーブル」
- 77 ページの「データクロスバーテーブル」
- 78 ページの「Sun Fire (3800-6800) データコントローラテーブル」
- 78 ページの「Sun Fire (3800-6800) ブートバスコントローラテーブル」
- 78 ページの「メモリーコントローラテーブル」

以下の表は、構成リーダーの各データ属性テーブルに含まれるデータ属性をまとめています。構成リーダーのデータ属性を選択すると、「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブにデータ属性テーブルが表示されます。詳細は、『Sun Management Center 3.0 ソフトウェアユーザーマニュアル』の「ブラウザ」の章を参照してください。

システム

表 4-1 システムの属性

属性	説明
名前	インスタンス名
オペレーティングシステム	マシンで動作中のオペレーティングシステム
オペレーティングシステム のバージョン	オペレーティングシステムのバージョン
システムクロック周波数	クロック周波数
アーキテクチャー	マシンのアーキテクチャー
システムのホスト名	システムのホスト名
マシン名	マシンのタイプ
システムプラットフォーム	システムのハードウェアプラットフォーム
シリアル番号	マシンのシリアル番号
タイムスタンプ	タイムスタンプ値
Raw タイムスタンプ	Raw タイムスタンプ値
総ディスク数	システム全体の総ディスク数
総メモリー容量	システム全体の総メモリー容量
総プロセッサ数	システム全体の総プロセッサ数
総テープデバイス数	システム全体の総テープデバイス数

ボードテーブル

表 4-2 ボードの属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
ボード番号	ボードのスロット番号
FRU	FRU (現場交換可能ユニット) であるかどうかの区別
ホットプラグ	ボードがシステムにホットプラグ取り付けされたかどうかの区別
ホットプラグ可能	ボードがホットプラグ可能かどうかの区別

表 4-2 ボードの属性 (続き)

属性	説明
メモリーサイズ	メモリーサイズ (MB 単位)
状態	アクティブまたはそれ以外
タイプ	ボードのタイプ
温度	センサー 1 位置の摂氏温度
温度	センサー 2 位置の摂氏温度
温度	センサー 3 位置の摂氏温度
温度	センサー 4 位置の摂氏温度
1.5VDC0	実際の入力電圧
3.3VDC0	実際の入力電圧
5VDC0	実際の入力電圧
12VDC0	実際の入力電圧

CPU ユニットテーブル

表 4-3 CPU ユニットの属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
ボード番号	このプロセッサが装着されているボードの番号
クロック周波数	タイマー周波数 (MHz 単位)
CPU タイプ	プロセッサのタイプ
D キャッシュサイズ	D キャッシュのサイズ (KB 単位)
E キャッシュサイズ	E キャッシュのサイズ (MB 単位)
FRU	FRU (現場交換可能ユニット) であるかどうかの区別
I キャッシュサイズ	I キャッシュのサイズ (KB 単位)
モデル	プロセッサモデル
プロセッサ ID	プロセッサの識別番号
状態	オンラインかオフライン
ユニット	ユニットの識別番号

DIMM テーブル

表 4-4 DIMM の属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
バンク番号	バンク番号
バンクサイズ	バンクサイズ (MB 単位)
バンクの状態	動作状態 (パスまたはフェイル)
FRU	FRU (現場交換可能ユニット) であるかどうかの区別

キースイッチ

表 4-5 キースイッチの属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
位置	動作モード

電源装置テーブル

表 4-6 電源装置の属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
HPU	ホットプラグ可能かどうかの区別 (Yes または No)
ユニット番号	ユニット番号
タイプ	電源装置のタイプ

DC 48V テーブル

表 4-7 DC 48V の属性

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
48VDC_0	電圧
Temp_0	摂氏温度
Current_0	出力電流
状態	状態 (緑で正常)

ラックファン

表 4-8 ラックファン

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
状態	動作状態

ファントレーテーブル

表 4-9 ファントレーテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
状態	動作状態
ユニット番号	ユニット番号
タイプ	タイプ

入出力コントローラテーブル

表 4-10 入出力コントローラテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
ボード番号	ボードの番号
クロック周波数	クロック周波数
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
インスタンス番号	インスタンス番号
モデル	デバイスのモデル
登録	登録

表 4-10 入出力コントローラテーブル (続き)

属性	説明
UPA MID	UPA MID
UPA ポート ID	UPA ポート ID
バージョン番号	バージョン番号

入出力デバイステーブル

表 4-11 入出力デバイステーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
ディスク数	このユニットに接続されているドライブ数
インスタンス番号	インスタンス番号
モデル	モデル
ネットワーク数	このユニットに接続されているネットワーク数
登録	登録
テープ数	このユニットに接続されているドライブ数

ディスクデバイステーブル

表 4-12 ディスクデバイステーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
ディスク名	コントローラ名
FRU	FRU (現場交換可能ユニット) であるかどうかの区別
インスタンス番号	インスタンス番号
ディスクターゲット	ディスクターゲット

テープデバイステーブル

表 4-13 テープデバイステーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
FRU	FRU (現場交換可能ユニット) であるかどうかの区別
インスタンス番号	インスタンス番号
モデル	モデル
テープ名	テープ名
状態	動作状態
テープターゲット	テープのターゲット番号

ネットワークデバイステーブル

表 4-14 ネットワークデバイステーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
Ethernet アドレス	Ethernet アドレス
インターネットアドレス	インターネットアドレス
インタフェース名	インタフェース名
記号名	記号名

アドレスリピータテーブル

表 4-15 アドレスリピータテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
温度	摂氏温度
ボード番号	ボードの番号
状態	動作状態

データクロスバーテーブル

表 4-16 データクロスバーテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
温度	摂氏温度
ボード番号	ボードの番号
状態	動作状態

Sun Fire (3800-6800) データコントローラテーブル

表 4-17 Sun Fire (3800-6800) データコントローラテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
温度	摂氏温度
ボード番号	ボードの番号
状態	動作状態

Sun Fire (3800-6800) ブートバスコントローラテーブル

表 4-18 Sun Fire (3800-6800) ブートバスコントローラテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
温度	摂氏温度
ボード番号	ボードの番号
状態	動作状態

メモリーコントローラテーブル

表 4-19 メモリーコントローラテーブル

属性	説明
名前	このユニットのシステム名
Compatible	互換ソフトウェアパッケージ
デバイスタイプ	デバイスのタイプ
ポート ID	ポート ID
登録	登録

構成リーダーの規則

表 4-20 は、構成リーダーモジュールのアラーム規則をまとめています。

表 4-20 構成リーダーの規則

規則 ID	重要度	説明
rcrse201	重大	次の 4 つのデバイスタイプのいずれかでエラーが発生した場合はエラーアラームを生成します。 <ul style="list-style-type: none">• アドレスリピータ• データクロスバー• データコントローラ• ブートバスコントローラ
rcrse207	重大	syslog メッセージで LUN エラーが発生した場合にエラーアラームを生成します。
rcrse225	重大	ST の状態に関する規則：テープドライブの状態が正常でない場合にエラーアラームを生成します。

Sun Fire のハードウェア規則

表 4-21 は、Sun Fire ドメイン管理のハードウェア規則のアラーム条件をまとめています。

表 4-21 ドメイン管理のハードウェア規則

規則 ID	重要度	説明
rsr1000	エラー	CPU で訂正可能なエラーが発生しました。
rsr1001	エラー	ECC メモリーエラーが発生しました。
rsr1002	警告	SCSI ディスクのマジック番号が不正です。
rsr1003	警告	割り込みレベルが処理されませでした。
rsr1004	警告	前回の停止時刻が、時刻チップの時刻より新しい時刻です。
rsr1005	警告	最大スワップ空間のサイズが未使用空間のサイズを下回っています。
rsr1006	警告	syslog メッセージで FP 警告が発生しました。
rsr1007	エラー	syslog メッセージで LUN エラーが発生しました。
rsr1008	エラー	syslog メッセージで PLOGI エラーが発生しました。
rsr1009	情報	ECC データビットを訂正しました。
rsr1010	警告 / 情報	<ul style="list-style-type: none">• Q ロジックループがオフラインになったときは警告アラームを生成します。• Q ロジックループがオンラインになったときは情報アラームを生成します。
rsr1011	警告	syslog メッセージに ECC クリア警告が記録されました。
rsr1012	情報	syslog メッセージに、SCSI ディスクが正常であることに関連するメッセージが記録されました。
rsr1013	情報	SCSI ディスクがオンラインになりました。
rsr1014	エラー / 警告	コンポーネントの温度センサーがしきい値を超えました。
rsr1015	エラー / 警告	電源装置で障害が発生したか、電源の変動が検出されました。
rsr1016	情報	ドメインのキースイッチの状態が変更されました。

ドメインの物理表示と論理表示

「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」タブでは、Sun Fire システムのハードウェア構成を物理および論理表示することができます。詳細は、54 ページの「Sun Fire システムの物理表示と論理表示」を参照してください。

システムが複数のドメインに分割されている場合、ドメイン管理者はアクセス可能なドメインの詳細情報のみ表示することができます。アクセス権限のないドメインを表示しようとする、コンソールウィンドウの最下部に「セキュリティー権限がないため、コンソール情報を読み込めません」というメッセージが表示されます。

第5章

COD (Capacity on Demand) の管理

この章では、COD (Capacity on Demand) ソフトウェアのインストールおよび使用条件、COD ソフトウェアの内容、コンポーネント、パーツ番号、ライセンス条件、リソース監視について説明します。

注 – サン製品のユーザーにとって、この章で有用なコマンドは1つだけかもしれません。97 ページの「COD 使用状況ログをサンに送信する」を参照してください。

この章では、次のトピックを取り上げています。

- 83 ページの「COD の概要」
- 84 ページの「COD パーツ番号とライセンス条件」
- 85 ページの「COD のソフトウェアコンポーネント」
- 87 ページの「リソースの監視」
- 91 ページの「Sun Management Center のコンソールからの COD の管理」

インストールおよび設定条件については、第2章を参照してください。

COD の概要

COD ソフトウェアは、次の中規模システムファミリの CPU プロセッサのライセンスを提供します。

- Sun Fire 6800
- Sun Fire 4810
- Sun Fire 4800
- Sun Fire 3800

COD システムを注文するということは、最大数の CPU プロセッサが取り付けられたフル構成のシステムを購入することを意味します。COD システムでは、使用権 (RTU) ライセンスを持つ CPU プロセッサのみ使用許可されます。

COD は、必要に応じてユーザーがリソースを動的に追加することを可能にするソフトウェアです。追加のリソースを利用する場合、契約上、ユーザーはそのリソースに対する RTU ライセンスを追加購入する義務があります。たとえば、CPU プロセッサで問題が発生した場合、COD システムは予備の CPU プロセッサを割り当てて、容量 / 性能の低下時間を短縮することを可能にします。

RTU ライセンスは、ユーザーが購入し、使用許可されたリソースに対して発行され、システムコントローラにインストールされます。システム発注書で購入された RTU ライセンスは、出荷時にあらかじめインストールされます。後で購入した追加の RTU ライセンスをインストールするには、システムコントローラの `addcodlicense` コマンドを使用します。

システムコントローラは、CPU プロセッサの使用状況を定期的に監視します。Sun Management Center ソフトウェアを使用して、毎月定期的に、COD 使用状況ログが収集され、電子メールでサンに送付されて、監査を受けます。

COD パーツ番号とライセンス条件

各 COD システムには、非 COD システムとは異なるパーツ番号が割り当てられます。

COD システム用の追加ライセンス条件は以下のとおりです。

- ユーザーは、あらゆる COD システムの保守契約を結ぶ必要があります。
- CPU プロセッサが 4 つの CPU / メモリーボードの場合は、4 つの RTU ライセンスが必要です。1 つのライセンスが 1 つの CPU プロセッサをカバーします。
- COD システム間の CPU ライセンスの移動はできません。
- COD システムの CPU / メモリーボードを非 COD システムに移すことはできません。

表 5-1 は、CPU プロセッサと RTU ライセンス条件をまとめています。

表 5-1 CPU プロセッサと使用権 (RTU) ライセンス条件

システム構成	CPU プロセッサ数	最小 CPU プロセッサ数	出荷時の最小使用権 ライセンス発行数
Sun Fire 6800 システム (構成 1)	CPU プロセッサ x 24	CPU プロセッサ x 8	8
Sun Fire 6800 システム (構成 2)	CPU プロセッサ x 12	CPU プロセッサ x 4	4
Sun Fire 4810 システム	CPU プロセッサ x 12	CPU プロセッサ x 4	4
Sun Fire 4800 システム	CPU プロセッサ x 12	CPU プロセッサ x 4	4
Sun Fire 3800 システム	CPU プロセッサ x 8	CPU プロセッサ x 8	2

COD のソフトウェアコンポーネント

COD ソフトウェアはつねにシステムコントローラのファームウェアに内蔵されます。また、システムの管理のために Sun Management Center 3.0 がインストールされている別のワークステーションに Sun Management Center の追加モジュールとして、COD 監視ソフトウェアがインストールされます。

この Sun Management Center モジュールは、Sun Management Center 3.0 の中規模システムのプラットフォームエージェントのコンポーネントになります。このモジュールに対する特別なインストール条件および設定条件はありません。

表 5-2 は、システムコントローラ上の COD を管理する、COD 用のシステムコントローラコマンドをまとめています。

表 5-2 COD 用のシステムコントローラのコマンド

COD の機能	システムコントローラのコマンド	説明
COD ライセンスの管理	addcodlicense	購入された COD ライセンスを追加します。
	deletecodlicense	インストールされている COD ライセンスを削除します。

表 5-2 COD 用のシステムコントローラのコマンド (続き)

COD の機能	システムコントローラのコマンド	説明
	showcodlicense	システムのライセンスデータベースに格納されているすべての COD ライセンスを表示します。
COD の使用状況	showcodusage	現在の COD ライセンスのリソースの使用状況を表示します。
COD ログ履歴	showcodlog	現在のログ構成情報を表示します。

コマンドの構文と説明、使用例については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(パーツ番号 806-7903) を参照してください。

また、Sun Management Center ワークステーションでは、次の 3 つの COD 用システムコントローラコマンドも使用できます (表 5-3)。

表 5-3 Sun Management Center ワークステーション上で使用可能な COD 用のシステムコントローラコマンド

COD の機能	COD 用コマンド	説明
サンへの電子メールの送信	sendcodlog	サンの COD 監視センターに電子メールで COD ログファイルを送信します。
COD ログファイルの妥当性検査	checkcodlog	COD ログファイルの妥当性を検査します。
COD ログファイルのサイズ制限	rotatecodlog	COD ログファイルが大きくなりすぎないようにサイズを制限します。

使用例を含めて、これらのコマンドについての詳細は、次の Web サイトで提供している Sun Management Center 3.0 のマニュアルを参照してください。

<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>

リソースの監視

どの中規模システムでも、COD リソースになるのは CPU リソースだけです。RTU ライセンスは、特定のシステム専用が付与されます (個々の CPU/ メモリーボードや特定の CPU プロセッサに**限定されません**)。

ライセンスを受けた CPU プロセッサは、1 つまたは複数のドメインで使用できます。CPU の使用状況は、CPU プロセッサが完全に機能する Solaris オペレーティング環境ドメインに組み込まれた場合にのみカウントされます。

ドメインには、CPU/ メモリーボード全体が割り当てられます。デフォルトでは、CPU/ メモリーボード上のすべての CPU プロセッサが Solaris オペレーティング環境によって組み込まれ、COD 監視ソフトウェアによって「使用中」とカウントされます。

RTU ライセンス数が足りず、すべての CPU プロセッサが**カバーされていない場合は、COD 契約違反になります**。

注 – Solaris オペレーティング環境による使用を意図して、ライセンスを受けていない、追加の CPU/ メモリーボードを、組み込まないでください。

Solaris オペレーティング環境から CPU/ メモリーボードを構成解除する方法は以下の 2 通りあります。

- システムコントローラソフトウェアを使用してコンポーネントを使用不可にする (ブロックリストに登録する)。
- Solaris オペレーティング環境を使用してコンポーネントを使用不可にする。

以下では、これらの操作を行う手順を説明します。

コマンド行インタフェースからの COD の管理

▼ システムコントローラソフトウェアを使用して、ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする

- システムコントローラの `disablecomponent` コマンドを使用して、余分な CPU プロセッサを使用不可にします (ブラックリストに登録)。

```
ds1-sc0:A> disablecomponent component_name [component_name...]
```

このコマンドについての詳細は、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

CPU プロセッサを使用不可にすると、Solaris オペレーティング環境でそのプロセッサを使用することができなくなります。この方法の 1 つの短所は、ライセンスを受けた、追加の使用権 (RTU) 付き CPU プロセッサを組み込む手順が複雑になることです。

▼ 追加の使用権 (RTU) 付き CPU プロセッサを組み込む

1. `addcodlicense` コマンドを使用して、システムコントローラに追加の使用権ライセンスをインストールします。

```
ds1-sc0:A> addcodlicense licensekey
```

`licensekey` はライセンスです。

2. Solaris オペレーティング環境を停止します。

3. システムコントローラの `enablecomponent` コマンドを使用して、ブラックリストからコンポーネントを削除して、使用可能にします。

```
ds1-sc0:A> enablecomponent component_name [component_name...]
```

このコマンドについての詳細は、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

4. Solaris オペレーティング環境を起動します。

▼ Solaris オペレーティング環境を使用して、ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする

1. スーパーユーザーになって、Solaris オペレーティング環境の `psradm(1M)` コマンドを入力します。

このコマンドでは、各 Solaris オペレーティング環境構成内の特定の CPU プロセッサを使用可能にしたり、使用不可にしたりできます。こうして、システムが COD プロセッサのライセンスに違反することはなくなります。

2. Solaris オペレーティング環境を実行するすべてのドメイン上で `psrinfo(1M)` コマンドを手動実行します。

このコマンドは、個々のドメインで現在使用されている CPU プロセッサ数を調査します。

各ドメインで使用されている CPU プロセッサ数を集計して、システム全体で使用されている総 CPU プロセッサ数を求め、使用されている総 CPU プロセッサ数が COD プロセッサのライセンスに違反していないかどうかを確認してください。

3. 使用している総 CPU プロセッサ数が COD プロセッサのライセンスに違反している場合は、使用不可にする CPU プロセッサを選択します。

注 – ライセンスを受けていない CPU プロセッサを使用から外す場合は、Solaris オペレーティング環境の `psradm(1M)` コマンドではなく、システムコントローラの `disablecomponent` コマンドを使用してください。`disablecomponent` コマンドのコマンド構文とその他の情報については、88 ページの「システムコントローラソフトウェアを使用して、ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする」を参照してください。

特定のプロセッサを使用不可にする場合は、Solaris オペレーティング環境の `psradm(1M)` を使用できます。

```
# psradm -f proc # [proc #]
```

このコマンドは、`/etc/init.d` スクリプトに追加して使用することもできます。

4. `psrinfo(1M)` を使用して、選択した CPU プロセッサがオフラインになっていることを確認します。

COD の監視ソフトウェアは、Solaris オペレーティング環境でオフラインになっている CPU プロセッサをカウントしません。

▼ 追加の使用権 (RTU) 付き CPU プロセッサを組み込む

1. `addcodlicense` コマンドを使用して、システムコントローラに追加の使用権ライセンスをインストールします。

```
ds1-sc0:A> addcodlicense licensekey
```

`licensekey` はライセンスです。

2. ドメインで CPU プロセッサを使用可能にする必要があるかどうかを判断します。

3. Solaris オペレーティング環境の `psradm(1M)` コマンドを使用して、適切な CPU プロセッサを使用可能にします。

例

```
# psradm -n proc # [proc #]
```

Solaris オペレーティング環境のコマンドを使用して、ライセンスを受けていない CPU プロセッサを使用不可にすると、`psradm(1M)` コマンドを使用して、ライセンスの取得後、別の CPU プロセッサをオンラインにすることができます。このとき、ドメインを停止する必要はありません。

Sun Management Center のコンソールからの COD の管理

Sun Management Center のコンソールを使用して、次のことを行うことができます。

- Capacity on Demand (COD) 使用状況ログの表示
- サンへの使用状況ログの送信 (購入先から依頼があった場合)

▼ COD 使用状況ログを表示する

システムに別売りの COD がインストールされていない場合、COD 使用状況ログは作成されません。

1. Sun Management Center コンソールを起動します (図 5-1)。

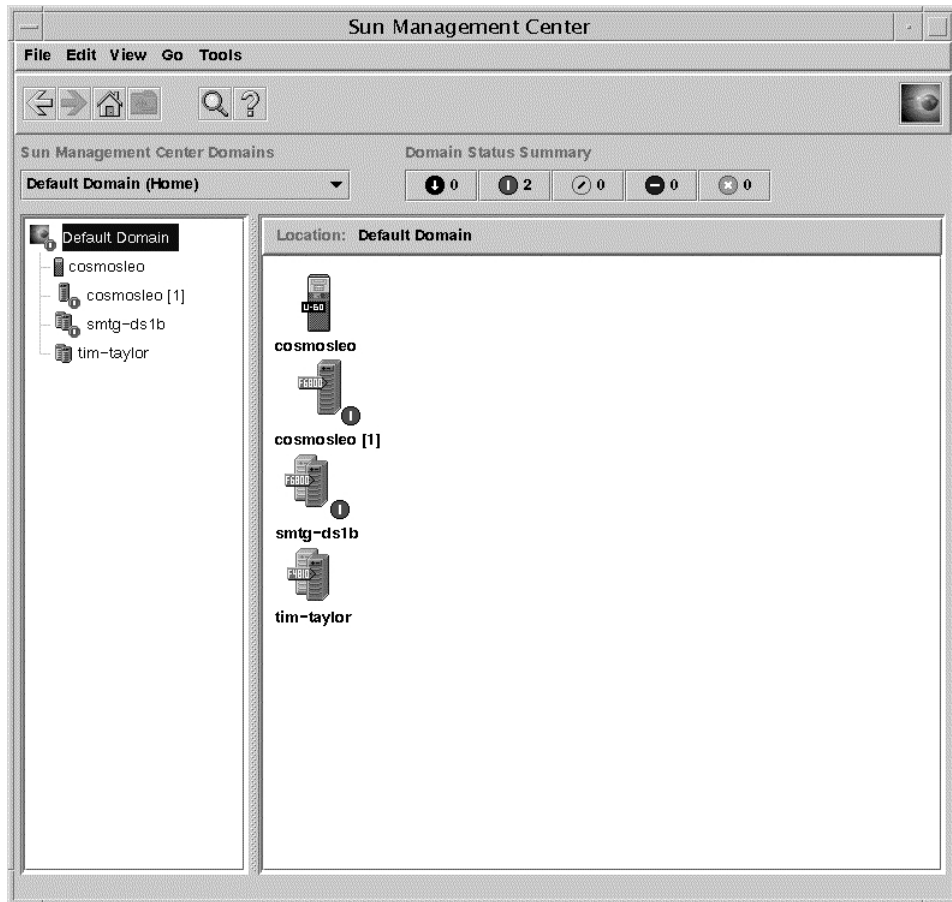


図 5-1 Sun Management Center コンソール

2. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire システムのアイコンをダブルクリックします。

図 5-2 は、Sun Fire 6800 システムを表す一般的なアイコンを示しています。

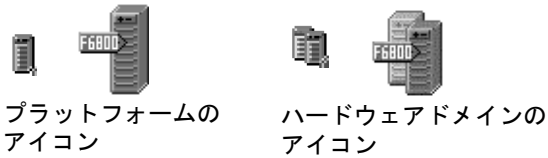


図 5-2 Sun Fire のアイコン

「詳細」ウィンドウが表示されます (図 5-3)。

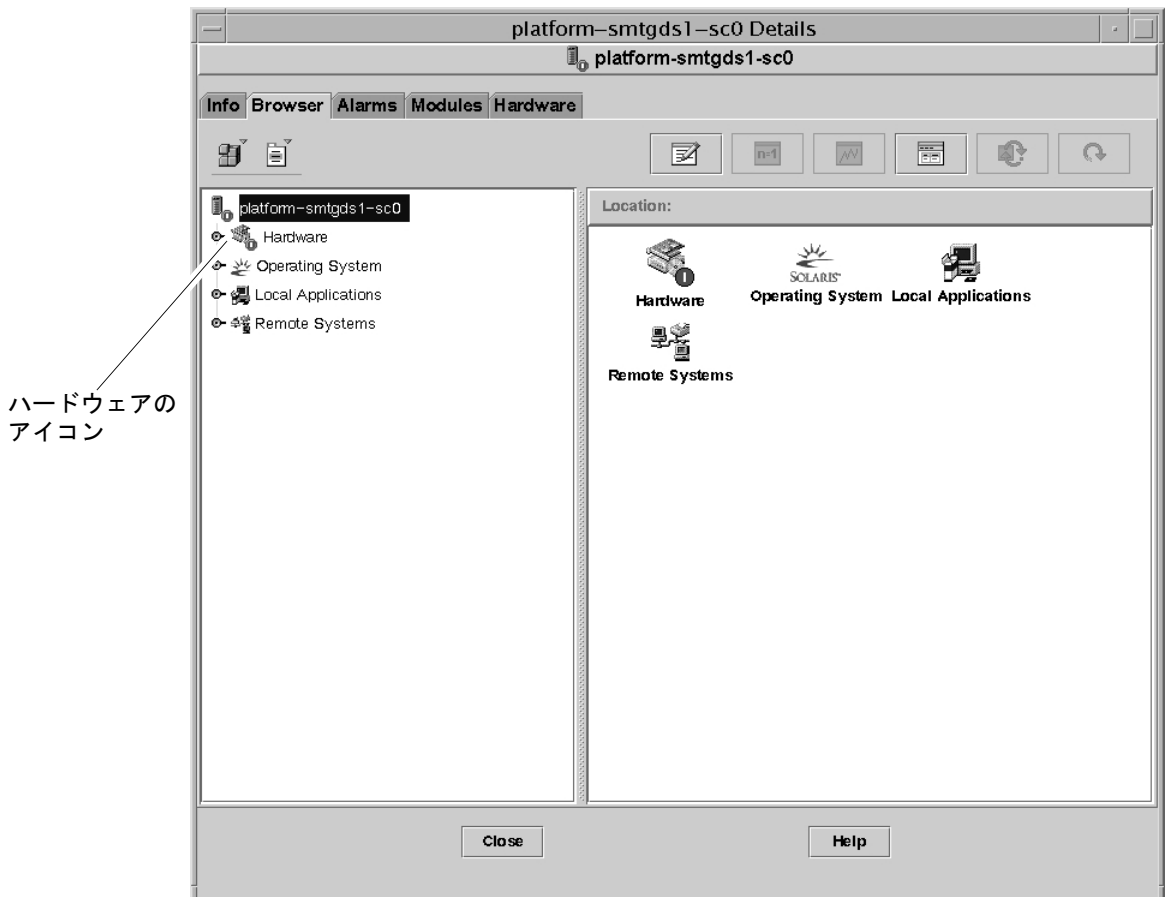


図 5-3 「詳細」ウィンドウ

3. ハードウェアのアイコンをダブルクリックして、階層を開きます。

「プラットフォーム管理モジュール」のアイコンと「COD の監視」アイコンが表示されます。

4. 「COD の監視」アイコンをダブルクリックして、階層を開きます (図 5-4)。

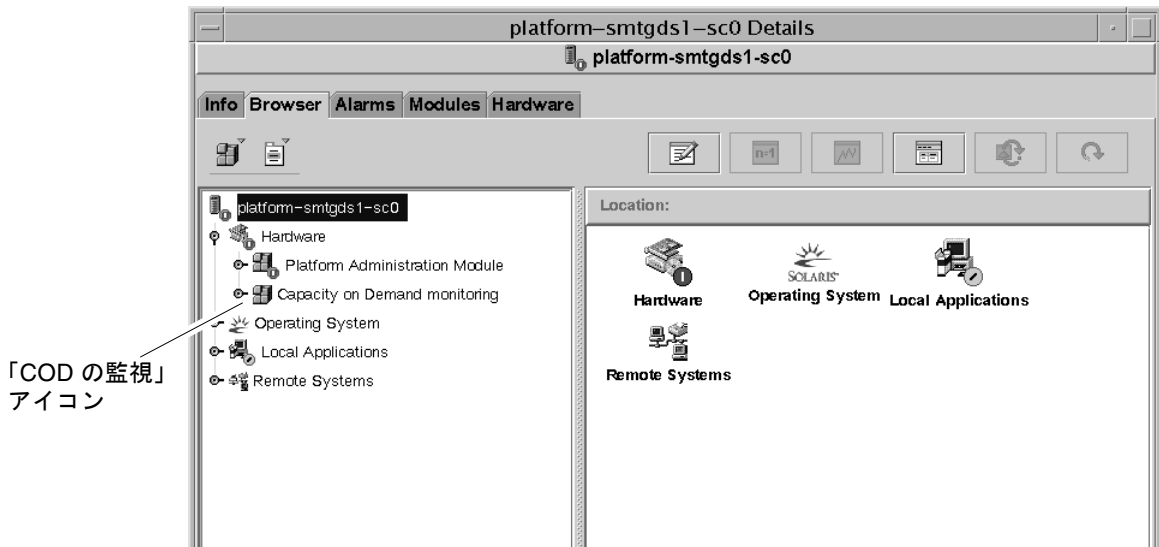


図 5-4 「COD の監視」アイコン

システムに別売りの COD がインストールされていない場合は、「COD の状態」、
「COD リソース」、「COD ログコレクタ」アイコンが表示されます (図 5-5)。

インストールされていない場合は、「COD の状態」アイコンのみ表示されます (図 5-6)。
また、システムに COD 使用状況ログは存在しません。

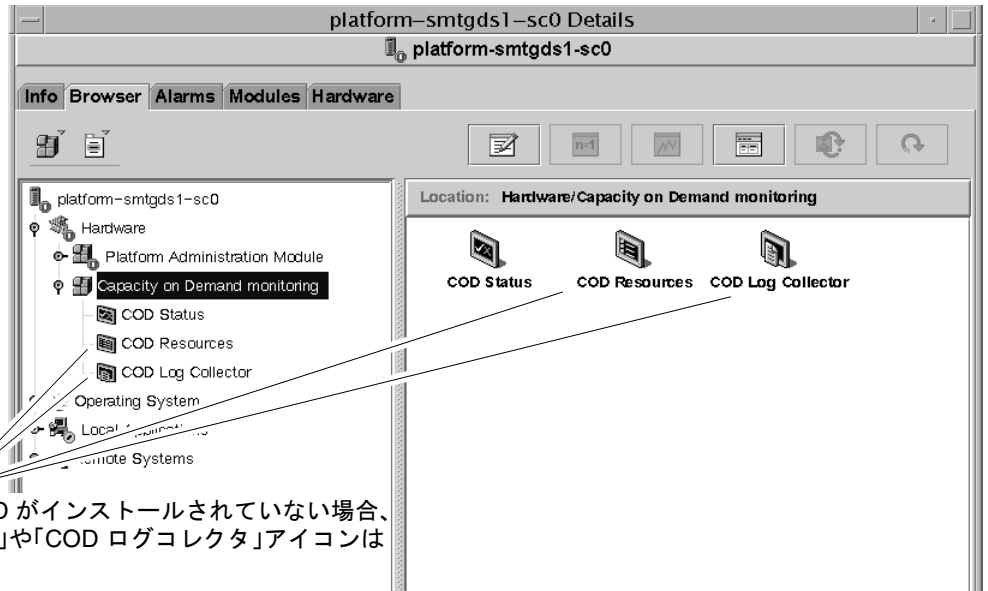


図 5-5 Capacity on Demand のアイコン

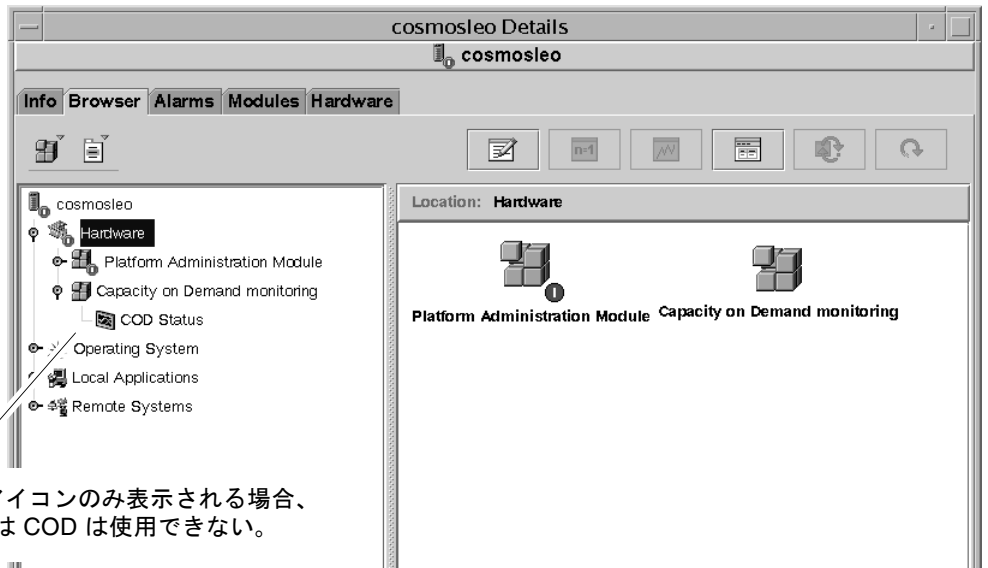


図 5-6 別売りの COD が使用できないときの画面

5. ログを表示するには、「COD ログコレクタ」を右クリックして、「COD ログの表示 (View COD Log)」を選択します (図 5-7)。

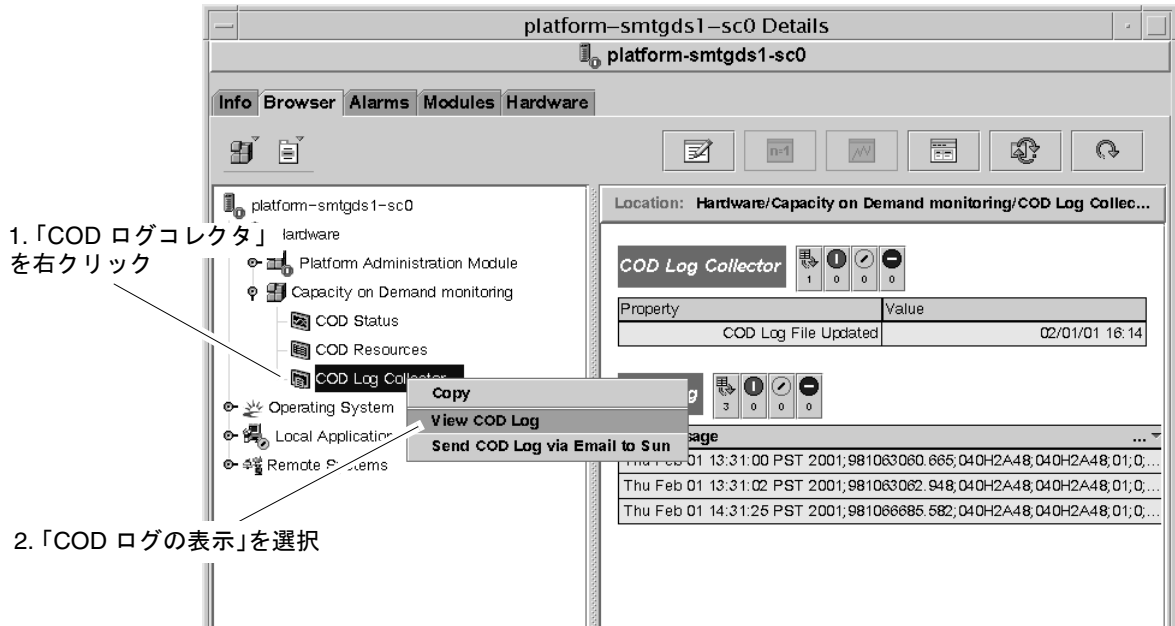


図 5-7 「COD ログの表示」を選択している画面

COD ログが表示されます (図 5-8)。リストの内容は、発生順ではなく、曜日ごとのアルファベット順になっています。

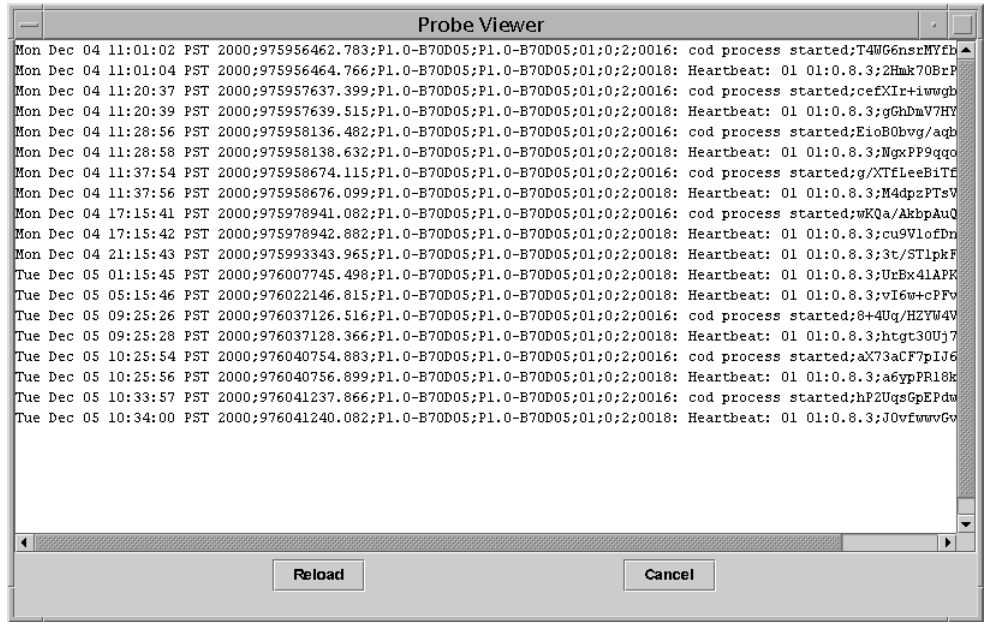


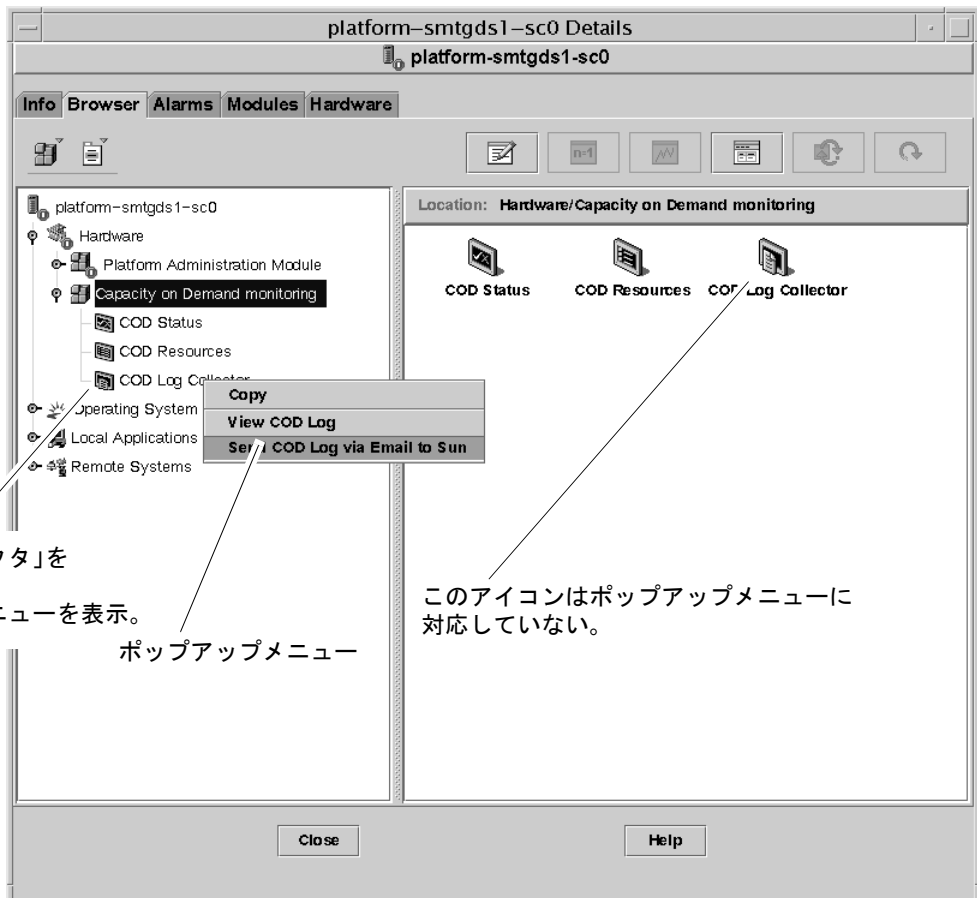
図 5-8 一般的な COD ログ

▼ COD 使用状況ログをサンに送信する

システムに別売りの COD がインストールされていない場合、COD 使用状況ログは作成されません。以下の手順は飛ばしてください。

1. 前節の手順 1 ~ 4 の操作を行って、「COD」アイコンの階層を開きます。
2. 「詳細」ウィンドウの左側にある「COD ログコレクタ」アイコンを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます (図 5-9)。

注 – 「詳細」ウィンドウの右側の対応するアイコンをクリックしないでください。右側のアイコンは、ポップアップメニューに対応していません。



「COD ログコレクタ」を
右クリックして、
ポップアップメニューを表示。

ポップアップメニュー

このアイコンはポップアップメニューに
対応していない。

図 5-9 COD ログコレクタのポップアップメニュー

3. 「電子メールでサンに COD ログを送信 (Send COD Log via Email to Sun)」オプションを選択します。

ログを送信すると、「プローブ表示」ウィンドウが表示されます (図 5-10)。

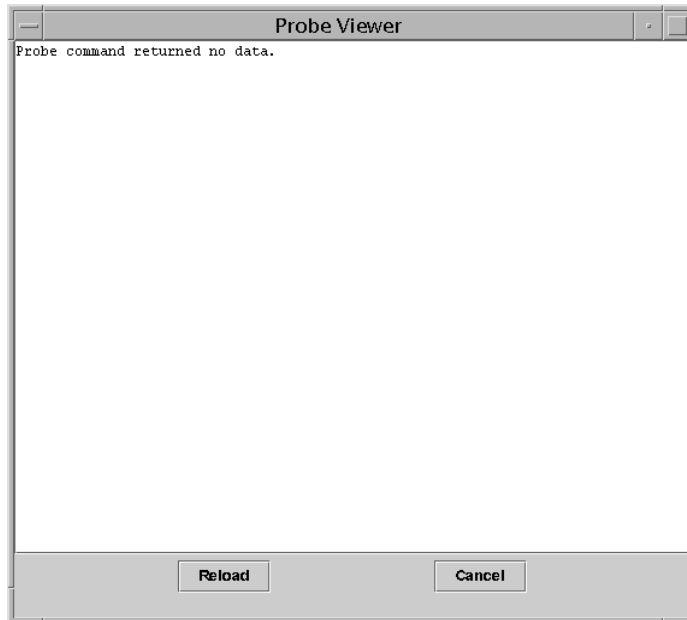


図 5-10 「プローブ表示」ウィンドウ

4. 「プローブ表示」ウィンドウの「取り消し」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。



注意 - 「再読み込み」ボタンをクリックしないでください。同じログが再送信されます。

用語集

\$BASEDIR Sun Management Center がインストールされているベースディレクトリ。たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合、ベースディレクトリは /opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin になります。

Capacity on Demand COD とも呼ばれる機能です。工場出荷時にあらかじめ取り付けられる、CPU などの特別なハードウェアリソースで構成されます。業務が拡大して追加の処理能力が必要になるのに伴って、サンから追加の CPU ライセンスを購入し、出荷や取り付けを待たずに、あらかじめ取り付けられている CPU をただちに利用することができます。COD コンポーネントは Sun Management Center 3.0 モジュールによって監視され、サンに電子メールで定期的なその状態が報告されます。システムに別売りの COD が取り付けられている場合は、サーバーまたはワークステーション上で Sun Management Center 3.0 監視エージェントをつねに実行しておく必要があります。

COD 「*Capacity on Demand*」を参照してください。

階層を開く アイコンを開いて、そのアイコンの下位に隠されていたサブセクションを見えるようにすることです。

管理ドメイン Sun Management Center 管理ドメインは、1 つ以上のホストシステムで構成されます。「ドメイン」という用語のその他の使用法と混同しないようにしてください。「ハードウェアドメイン」も参照してください。

デフォルトのプラットフォームエージェント

Sun Management Center 3.0 サプリメントソフトウェアをインストールすると、プラットフォーム管理モジュールエージェントが作成されます。このデフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire システムを

監視できます。複数の Sun Fire システムを監視するには、それぞれにプラットフォームエージェントのインスタンスを 1 つ追加作成する必要があります。

ドメイン 「管理ドメイン」と「ハードウェアドメイン」を参照してください。

ドメインの管理 このマニュアルでは、「ドメインの管理」はハードウェアドメインの管理を意味します（「ハードウェアドメイン」を参照）。ドメインの管理では、手順に従って、**ホストシステム内の**ハードウェアリソース上で動作するソフトウェアやアプリケーションばかりでなく、それらハードウェアリソースそのものを管理します。『Sun Management Center ソフトウェアユーザーマニュアル』などの他のマニュアルでは、「ドメインの管理」は、2 つ目、すなわち、複数のホストシステムからなるグループの管理を意味します（「管理ドメイン」を参照）。

ハードウェア

ドメイン Sun Fire のドメインは、1 つのホストシステム内に内蔵されているシステムボードやその他の装置を論理的なグループにまとめたものです。このマニュアルでは、この種のドメインは「ハードウェアドメイン」と呼ばれ、「管理ドメイン」とは異なります。「管理ドメイン」も参照してください。

プラットフォーム エージェントの インスタンス

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire システムを監視できます。複数の Sun Fire システムを監視するには、それぞれにプラットフォームエージェントのインスタンスを 1 つ追加作成する必要があります。

プラットフォームの

管理 Sun Fire システム全体を管理・監視することです。プラットフォームの管理では、Sun Fire システムを複数のハードウェアドメインに分割することができます。ドメイン管理者はそれぞれのハードウェアドメインは個別に管理・監視することができますが、プラットフォーム管理者は、プラットフォーム全体に加えて、個々のハードウェアドメインのすべてを管理・監視することができます。

プロキシ デフォルトのプラットフォームエージェントのコピーを「プロキシ」といいます。デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire システムを監視できます。複数の Sun Fire システムを監視するには、それぞれにプラットフォームエージェントのインスタンスまたはプロキシを 1 つ追加作成する必要があります。

索引

A

ACL、「アクセス制御リスト」を参照
addcodlicense, 85

B

\$BASEDIR、ベースディレクトリ, 18, 19, 27

C

Capacity on Demand

addcodlicense, 85
checkcodlog, 86
deletecodlicense, 85
rotatecodlog, 86
sendcodlog, 86
showcodlicense, 86
showcodlog, 86
showcodusage, 86

Capacity on Demand 契約違反, 87

checkcodlog, 86

COD 契約違反, 87

COD システムの保守契約, 84

D

deletecodlicense, 85

E

es-platform 手順, 20

es-setup 手順, 18, 19

es-start のオプション, 23

es-stop のオプション, 25

F

FRU 情報の表示, 51

P

"platform"、プラットフォームエージェントのデフォルト名, 19

R

rotatecodlog, 86

RTU、使用権ライセンス, 84

S

sendcodlog, 86

Serengeti オブジェクト, 33

Serengeti システムのノード表示, 34

Serengeti システムの複合表示, 35

setupdomain コマンド, 17

setupplatform コマンド, 15
showcodlicense, 86
showcodlog, 86
showcodusage, 86
SNMP、設定
 ドメイン, 16
 プラットフォーム, 14
SNMP の設定
 ドメイン, 16
 プラットフォーム, 14
Sun File サプリメントソフトウェア
 定義, 1
Sun Fire システムのアイコン (絵), 5
sunmanagementcenter Web サイト, xvi

T

telnet コマンド, 15, 16

W

Web サイト
 Sun Management Center の Web サイト, xvi

あ

アクセス権限, 31
アクセス制御リスト、編集, 52
アップグレード
 ベータソフトウェア, 11
アップグレード、既存のデータの保存, 11
アラームの生成規則, 80

い

インストールと設定
 COD (Capacity on Demand)、準備, 28
 エージェントインスタンス、設定の取り消し
 , 27
 管理ドメイン、作成, 29

サプリメントソフトウェアのインストール, 12
デフォルトのプラットフォーム管理モジュール、
 設定の取り消し, 27
特定のプラットフォームエージェント、削除
 , 28
ハードウェアドメイン、作成, 29
プラットフォームエージェントインスタンス、
 設定, 21
プラットフォームエージェントインスタンス、
 追加作成, 20
ユーザー、グループへの割り当て, 22

お

オブジェクトの作成, 33

か

仮想キースイッチ, 39
仮想キースイッチのモード
 Diagnostic, 39
 Off, 39
 On, 39
 Secure, 39
 Standby, 39

管理者

 ドメイン管理者とプラットフォーム管理者の比
 較, 2

管理ドメインの定義, 3

き

キースイッチ、「仮想キースイッチ」を参照
規則、アラームの生成, 80
既存のデータの保存, 11
起動
 すべてのプラットフォームエージェント, 24
 デフォルトのプラットフォームエージェント
 , 23
 特定のプラットフォームエージェントインスタ
 ンス, 23

く

グループへのユーザーの割り当て, 22

こ

構成リーダーの属性テーブル, 69 ~ 78

構成リーダーモジュール

アイコンの位置, 62

システムの物理表示と論理表示, 62

構成リーダーモジュールによる物理表示, 62

構成リーダーモジュールによる論理表示, 62

し

システムアラームの生成, 80

システムコントローラの設定, 14, 49

シャーシ情報テーブル

FRU 情報, 44

移動, 44

システムコントローラの設定, 44

テーブルのソート, 44

テスト, 44

電源の投入と切断, 44

ログホストの設定, 44

割り当て、割り当て解除, 44

使用可能なボードの割り当て, 45

使用権 (RTU) ライセンス, 84

使用権ライセンス条件 (表), 85

使用権ライセンスの購入, 84

せ

設定

システムコントローラ, 14

そ

属性テーブル, 69 ~ 78

て

停止

すべてのプラットフォームエージェント, 26
デフォルトのプラットフォームエージェント
, 25

特定のプラットフォームエージェント, 25

データ、アップグレード中の保存, 11

データ属性テーブル, 69 ~ 78

と

ドメインアクセス, 36

ドメイン管理者のアクセス, 2

ドメインテーブルの操作

アクセス制御リスト ..., 38

キースイッチ ..., 38

テーブルのソート, 38

ドメインの管理, 38

ログホストの設定 ..., 38

ドメインのアクセス制御リスト (ACL) の編集, 52

ドメインの仮想キースイッチ設定の変更, 39

ドメインのタイプの定義, 3

ドメインの定義, 101

ドメインのログホストの設定, 41

は

ハードウェア

関連モジュール, 62

ひ

表示

アラーム規則, 64

システム内のすべてのデバイス, 64

システムの物理表示, 54

システムの論理表示, 54

ノード表示, 34

複合表示, 35

表示、システムの表示, 54

ふ

- プラットフォームエージェント
 - すべてのエージェント、起動, 24
 - すべてのプラットフォームエージェント、停止, 26
 - デフォルトのプラットフォームエージェント、起動, 23
 - デフォルトのプラットフォームエージェント、停止, 25
 - 特定のエージェントインスタンス、起動, 23
 - 特定のプラットフォームエージェント、停止, 25
- プラットフォーム管理者のアクセス, 2
- プラットフォーム管理モジュール, 31

へ

- ベータソフトウェアのアップグレード, 11
- 別売りの Capacity on Demand ソフトウェアの定義, 1

ほ

- ボードのテスト, 48
- ボードの割り当て解除, 46
- ボードは1つのドメインにのみ割り当て可能, 45

も

- モジュール
 - ハードウェア, 62
 - 読み込み, 67
- モジュールの階層表示内のプラットフォーム表示とドメイン表示, 31
- モジュールの読み込み, 67

ゆ

- ユーザー
 - アクセス権の付与, 22
 - グループへの割り当て, 22

- ユーザーのアクセス権, 22
- ユーザーのマシンアクセス権, 22
- ユーザーへのマシンアクセス権の付与, 22
- 有用なヒント
 - 検索機能における英大文字と小文字の区別, 59

よ

- 予備の CPU プロセッサ, 84

ら

- ライセンス、RTU, 84
- ライセンスを受けていないコンポーネントを使用不可にする, 88 ~ 91

ろ

- ログホスト
 - 設定, 41
 - 複数のログホストの指定, 41
- ログホストの設定, 50